2022 年度短期語学留学

成果報告集

2022 年 10 月

追手門学院大学国際学部

はじめに

本書は、追手門学院大学国際学部で 2022 年 9 月 12～16 日に実施された集中講義「留学特別演習２」から生まれた成果物の一つです。

この科目を受講したグローバルスタディーズ専攻の 16 名の 1 年生は、同年 7～8 月にかけて、2 組に分かれて米国に渡り、以下の大学においてそれぞれ短期語学留学プログラムを受講しました。

（１）ペンシルバニア大学（University of Pennsylvania）
（２）カリフォルニア大学バークレー校（University of California, Berkeley）

帰国後の授業である留学特別演習２では、留学の成果を共に振り返り、それを「見える化」することを目指しました。ここでいう「成果」には、留学を通じて学んだこと、反省点、この経験を今後どう活用したいか、などあらゆることが含まれます。

学生たちは留学特別演習２の授業のなかで、複数の手段によって振り返りと見える化をおこないました。このうち、もっともきちんとした言語の形で見える化されたのが「留学報告書」です。共通の項目に関して、3,000～5,000 字の範囲で一人ひとりが執筆しました。そして、全員の留学報告書を集めたのが本資料です。

学生たちが、それぞれの貴重な体験を自分の言葉で綴った宝石箱のような報告集が出来上がりました。自分たちの記念になることに加えて、将来、読み返して一層学びを深めるために活用されれば幸いです。また、留学にあたりお世話になった人たちへの感謝の手紙のような意味もあります。さらに、近い将来に留学する人たちにとって参考になることと思います。

では、宝石箱を開いてみましょう。

執筆者（掲載順）

ペンシルバニア大学

新納 頼揮（SHINNO, Raiki）
高橋 陽菜乃（TAKAHASHI, Hinano）
坂本 愛海（SAKAMOTO, Manami）
小林 美緒（KOBAYASHI, Mio）
川口 由羽（KAWAGUCHI, Yu）
髙橋 恭佑（TAKAHASHI, Kyosuke）

カリフォルニア大学バークレー校

西田 空良（NISHIDA, Sora）
新谷 美音莉（SHINTANI, Minori）
荻野 空芽（OGINO, Kuga）
牧村 彩花（MAKIMURA, Ayaka）
武田 晴陽（TAKEDA, Haruhi）
文山 凌汰（FUMIYAMA, Ryota）
宮尾 藍羽（MIYAO, Aiha）
中務 聖太（NAKATSUKASA, Shota）
森岡 千尋（MORIOKA, Chihiro）
峯 姫菜（MINE, Hina）

ペンシルバニア大学での講義風景

フィールドワークで歴史を学ぶ

留学報告書

新納 頼揮

1．留学先の地域や大学の印象

私の留学先であったペンシルベニア大学は、アメリカ合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィアに位置しています。まず、滞在していた地域、特にユニバーシティ・シティについての印象ですが、代表的なものが３つあります。

１つ目は、非常に快適な気候であるということです。体感的には、7 月の気温は日本の 10 月と変わりません。つまり、基本的にはほんのり暖かいが、しばしば肌寒い程度です。しかし、一般的に知られているように日差しがものすごく強いです。どれくらい強いか日本の気候でたとえると、雲一つない真夏の海岸で浴びる日差しの強さが通常であるようなものです。眩しさに弱い私の眼は米国の日差しと相性が悪く、たまに頭痛が起きるほどでした。しかし、日差しについては日傘やサングラスなどで対策できるので、気にしすぎるほどではないでしょう。

２つ目は、非常に安全であるということです。ユニバーシティ・シティでは、常時パトロールカーが巡回しており、大事でなくても、即座にパトランプを光らせ現場に急行したり、対象の車両を追跡したりしていました。また、パトロールカーだけでなく、警察官も徒歩で巡回していました。20 時頃に日が暮れてきたとしても、それに伴ってパトロールの役員もさらに増員されるので、少し買い物で帰宅が遅れてしまっても、安全に寮へ帰宅することができました。さらに、万が一帰りが遅くなってしまったとしても、地域内を走るバスや大学が提供する同行サービスを利用すれば、比較的安全に移動することができるでしょう。

３つ目は、様々な種類の「ユニークな食べ物」を体験することができるということです。アメリカ合衆国という国には、海外からの移民が多数います。彼らが飲食店を営むことで、アメリカ合衆国ではたくさんの国の料理を食すことができるのです。ユニバーシティ・シティには、多様な料理を取り扱うフードトラックがたくさんいました。私もそこで、中東で定番のファラフェルという、ひよこ豆のコロッケのような普段目にすることのないような料理を食べることができました。三大欲求の１つである食欲に関連する経験は、時を経ても新鮮さを忘れることはないでしょう。

2．授業やその他活動の概要

私たちが参加したプログラムには、選択科目が２つ、共通科目が１つありました。それに加えて、週に２回程度、３時限目の授業後にフィールドトリップや、特別な講義などがありました。

たくさんの授業や活動の中でも、特に私が記述したいと思ったことは、イタリアン・マーケットを訪れたことです。イタリアン・マーケットは、フィラデルフィアに位置しているイタリア系移民が多く居住する地区のことです。イタリア人が集まっているため、その地区はイタリアの文化要素を持っています。最も文化的要素が顕著に表れていたのは、食文化です。観光のためでもあるとは思いますが、そこにはチーズやピザ、ワイン、ティラミス、イタリアンアイスやジェラートなど、イタリア食を代表する食べ物で満ち満ちていました。そこで初めて、大きくて分厚い本場のピザを食すことができました。

アメリカに滞在しながらイタリアの文化を直に学ぶ機会は、私の留学体験を非常に充実させるものでした。

3．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

今回の留学体験を通じて、多くのことを学びました。特に印象に残っている学びは、主に２つあります。

１つ目は、差別主義はマイナーであるということです。私は留学する前まで、アメリカ合衆国では人種問題がとても深刻であると考えていました。なぜそう考えていたかというと、度々アメリカ合衆国で起きる黒人・アジア人差別をニュースでよく見るからです。留学した当初も、注意していなければ被害に遭ってしまうのではないかと気にしていました。しかし、アメリカ合衆国で生活を送っていると、肌の色、髪の色、容姿や年齢は関係なく、皆仲良く楽しそうに、平穏に過ごしていました。もちろん、人種差別問題は実際に起きていることであり、それについて注意し、考えることはとても大切であります。しかしながら、人種差別問題を気にする人もいれば、もちろんそのような問題を気にもとめない、人は皆人であるという風に感じ取れるような人がたくさんいることが実感を持ってわかりました。２つ目でも述べることですが、私は、実感を持って理解することは重要なことだと考えます。アメリカ合衆国のリアルは、実際に行ってみなければわからないことなので、貴重な学びを得ることが出来ました。

２つ目は、離れた国に住んでいても、人は変わらないということです。どの国に住んでいても、食事をし、友と語らい、体を休め、生活を送る。これらは当然のことですが、実際に目で見てみなければ実感を得ることの出来ないものだと私は考えます。現在世界では、様々な事件が起きており、それらはメディアによって、たとえばニュースなどで取り上げられています。しかし、画面の向こうにいる、典型的な同じ民族の容姿でない人が巻き込まれている状況を目にしたとしても、実感をもってその話題を受け入れることは少々難しいのではないかと私は考えています。このことから、すべての人が、私と同じように日々生活を送っているという実感を持てたことは、非常に意味のある学びであると考えます。

4．自分が考える留学の成果と反省点

留学の成果は、密接な共通点を持たない人間とコミュニケーションをとり、交友関係を築くことが出来たことです。私は、海外の土着文化について興味があり、洋楽や洋画など、海外の娯楽に興味を持っていません。そのため、同世代の海外に住む人とは言うまでもなく、あらゆる世代の人間と特定の話題について盛り上がることについて心配していました。やはり若者は流行に敏感で、それは本邦と外国の間に違いはないように思えました。しかし、言語については興味を持つ人が多いようで、周りでもその話題を挙げている人が多いように見えました。それを見習い、その国に住んでいても興味が無ければ思いつかないようなマイナーな文化を話題にするよりも、メジャーな文化について話をするように努力しました。やはり国民としてのアイデンティティがあるのでしょうか、皆嬉しそうにメジャーな文化について教えてくれました。メジャーな文化についても、話が盛り上がったついでに聞くこともできました。これらのことから、留学先では、文化や価値観を共有しお互いを理解することで、尊重し合える交友関係を築くことが出来ました。

反省点は、外で過ごす時間を十分にとることが出来なかったことです。日本を離れる前までは、せっかく留学するのだから、積極的に外に出て実際に外界を感じるべきだと考えていました。しかし、留学先での毎日の課題が想像していたよりも負担となり、時差ボケや環境への適応するための体への負担から、なかなか外に出ることが出来ませんでした。もちろん留学中も、外に出なければと考えていたので、バスに乗って市街地に出てみたり、電車に乗って外出したりしました。そこでも新しく素晴らしい経験をたくさんすることができました。1ヶ月という短い期間の留学だったので、俯瞰してみると妥当な過ごし方ではあったと思います。しかし、思い返してみれば、努力すればその 1.5 倍は外に出ることが出来たか、と感じました。

5．留学経験を今後どう活用したいか

私は留学で得た、主に3と4の成果で述べた経験を、今後の日常生活で生かしたいと考えています。なぜなら、他人は自分と同じ人間であるという当然な「事実を実感する」という経験は、お互いを理解し尊重するための力に昇華することが出来ると考えているからです。故に、これは日常での対人交流において活用されるべきものであります。このことから、留学で得た経験は、日常生活で人と交流する時、よりよい関係を築くために生かしたいと考えています。

留学で得ることの出来た英語に関する経験は、現在受講している TOEIC の課外講座に活用したいと考えています。日本人の話す英語ではない、いわゆるネイティブの英語を多く耳にする機会は、留学する以外にそう得られるものではありません。ネイティブの英語を1ヶ月間耳にすることで、ある程度の英語を聞きとる力、リスニング力の基礎を作ることができたと考えています。したがって、これらの経験は、TOEIC でよりよいスコアを獲得するた

めに活用するつもりであります。

６．謝辞

今回の留学について感謝を伝えたい人はたくさんいます。多くの人に感謝を述べるため、２つに大きく分けます。

まずは、今回の留学費用を負担してくださり、留学を可能なものにしてくださった両親に感謝しています。１ヶ月の短期留学に必要だった費用は、入学時に納める語学実習費 90 万円、預金残高証明に約 80 万円、その他留学中の諸費でした。これらの費用を負担していただけたこと、感謝してもしきれません。

次に、私たちを補助してくださった学校関係者やプログラムの関係者の方々です。私は、この留学まで海外経験がありませんでした。彼らのサポートがなければ、この留学生活を充実させることは　目的地に到着することさえ難しかったと思います。

改めて、この留学期間中に様々な補助をしていただいたこと、お礼申し上げます。

留学報告書

高橋 陽菜乃

１．留学先の地域や大学の印象

私はアメリカ合衆国、フィラデルフィア州にあるペンシルバニア大学という大学に 1 ヶ月の短期留学をしました。

2 日間に渡り、飛行機で移動し、現地に訪れた時は授業が始まる前日の日曜日でした。寮の中を確認して荷解きをした後、生活必需品を揃えるため、周囲のスーパーマーケットや飲食店を探しに行きました。寮の近くに「マクドナルド」があり、本場のバーガーを食べてみたいと、そこで初めて現地で買い物をしました。しかし、店員さんの対応が無愛想で、とても怖かったことが印象に残っています。留学に行く以前、日本に比べると、アメリカの接客態度は悪いと聞いていたので、それを実際に現地で、身に染みて実感しました。私は英語が全然できないので、最初、店員さんのとても早い英語が聞き取れず、何を質問されているか分からず、また注文が伝わらないことが度々ありました。その時、自分は英語が出来ないのだと改めて気付かされ、少し、英語学習に対して挫折を感じたのを覚えています。

しかし、別日にレストランに行ったとき、その時の店員さんの態度がとても良く、私が言っていることが分からないと困った顔をしていた時、その店員さんは分かりやすいようにほかの言葉で言い換えてくれました。この時私は、アメリカの接客態度が悪いという固定概念にとらわれてはいけないと思いました。客に対しての態度はその店や人によって違うのは、「チップ」習慣があるアメリカだけでなく、日本と一緒であると気づかされました。

留学プログラムの初日、初めて教室に入ると、留学生の 7 割ぐらいが韓国人でした。様々な国か学生が来ているのだと想像していた私からしたら、この事はとても衝撃的でした。韓国の他にも、メキシコ人やフランス人がいましたが、私たちの他にも東京から来た日本人もこのプログラムに参加していたので驚きました。プログラムに参加する学生の 9 割はほぼアジア人でした。

最初はプログラムのガイダンスがほとんどで、今後の予定について説明していましたが、先生が言っていることが少し分かるくらいで、完全に理解することは出来ませんでした。この時、周りの人との英語力の差を酷く実感させられ、少し落ち込んだため、最初の方は英語学習に対してあまり前向きではなかったです。

２．授業やその他活動の概要

2 日目から授業が始まり、私たちは全体で 8 人と少人数のクラスに割り当てられました。各クラス「初級、中級、上級」とクラス分けがされており、私たちのクラスは「初級」でし

た。人によってはレベルが低いと嫌気がさすかもしれませんが、少人数ということもあり、先生が言っていることが分からない時、自分から質問しやすい雰囲気がありました。先生は私たちのために遅く、はっきりとした発音で英語を話してくれたので、とても理解しやすく、自分の意見を皆の前で発表する時、自分の言いたいことの意図をくみ取ってくれたので、自分に見合ったレベルで英語学習が出来たのは非常によかったと思います。

留学プログラムの授業と普段の大学での授業と比較すると、授業はとても活発的でした。授業内で指名され、自分の意見を英語で発表するということがほとんどだったと思います。人前で話すのが苦手だった私にとって、最初の方は苦痛でした。それに加えて、英語で話すという機会が日本でほとんどなく、いきなり英語で自分の意見を言えと言われても無理な話だと考えていました。しかし、ほかの学生が授業内で長い英語で自分の意見を先生に伝えている前向きな姿勢を見た時、私は非常に心を動かされました。それ以来、私は授業でも間違えてでもいいから積極的に発言し、先生に当てられた時は「わからない」と言うのではなく、自分の意見を簡単な英語で相手に伝えるようにと心がけるようになりました。

留学プログラムには週に 2 日ほど放課後にフィラデルフィアの観光地に訪れるというアクティビティがあり、私たちは先生たちに「美術館」や「独立記念館」など様々な場所に連れていってもらいました。

アクティビティとして行ったなかで、特に私が印象に残ったのは「リーディングターミナルマーケット」です。この場所は日本でいう、グルメマーケット街で、昔使われていた駅跡のスペースを再利用されているため、クラシックな雰囲気と至る所がネオン看板と照明で照らされて、煌びやかな雰囲気が楽しめました。フィラデルフィアの地元料理を楽しめるだけでなく、メキシコ料理や韓国料理、お寿司など他国の料理も食べることができる場所でした。アメリカ料理だけに固執するのではなく、多様な他国の料理をその場所で一気に楽しめることができるということに非常に感心しました。また、色鮮やかな可愛いお菓子屋さんなど、ベイカリーや精肉店など、食材も購入することができ、とても充実している印象を受けました。

３．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

今回の留学は私にとって、初めて海外に行った経験だったので、英語だけでなく、他国の文化を学ぶことができました。現地に訪れた時、私は日本と比較すると、アメリカはとても大きく、多様性に満ちた国であることを実際に肌で感じて気づかされました。外出時、外で歩いている人はアメリカ人だけでなく、現地で生活している多くの中国人やベトナム人などのアジア系の人を見かけることがありました。人種問わず、様々な人がいることに日本では見かけない異様な光景に私は不思議と感じました。その背景にはアメリカの歴史である「移民」が関わっていることを知りました。特にフィラデルフィアの物価は他の地域よりも約 20%低いため、比較的生活がしやすく、人気の観光地も多いので、移住先として人気の地域だそうです。

授業内で移民について学ぶ機会がありましたが、その中で私は「なぜ日本では移民が少ないのだろう」と疑問に思い、個人的に調べてみました。

日本は外国に比べ、圧倒的に少なく、その原因は受け入れ国になることによって、貧困地域の発生、社会保障の負担、治安不安、近隣住民との混乱などが大きな問題と懸念されるそうです。そのほかにも、日本語という言語の壁が、海外の人にとって、大きなものと感じるという、日本の社会背景だけでなく、言語的コミュニケーションの問題もあるということを知りました。

今まで、グローバル化について大学でも学んできましたが、私は海外経験がなかったため、具体的に外国の貧困問題や移民問題について、正直、興味関心が湧くことがありませんでした。しかし、留学の中で、必然的に日本とドルの為替相場、アジアヘイト問題に目を向けることが多々ありました。実際にアメリカ現地で学んだ知識や目で見たものをきっかけに自分の興味関心に繋げることができるのだとこの貴重な留学の機会を通して、考えさせられました。

４．自分が考える留学の成果と反省点

今回の留学で得られた成果は「行動力」だと思います。今まで私は内気な性格で、多くの人の前で話すことを毛嫌いしていました。

しかし、留学のプログラムの中には、プレゼンテーションが多く組み込まれており、人前で発表する機会がたくさんありました。特に印象に残っているのが、授業最終日に行われた、授業中に自分のフィラデルフィアの経験を綴ったホームページを発表するプレゼンテーションです。この授業は Zoom で参加するオンライン授業になっていました。留学生のほとんど参加しておりクラス関係なく、ブレイクアウトルームに振り分けられ、その中で自分が作成したホームページについて紹介するという内容で、私は初対面の人と話さなければいけなく、対面ではないので、自分の意思を伝えづらいのではないかと、とても不安でした。しかし、今までの留学の経験を振り返り、不安に思わずに、文法が間違っていてもいいから思い切って話してみようと意識を変えてみました。実際、プレゼンテーションが進んでいく中、話し手が自分の番に回って来た時、とにかく自分の意思を伝えようと話してみると、相手から相槌など自分の話を聞いてくれている反応が返ってきました。その時、私はとても嬉しいと思い、それ以来、怖がらずに積極的に英語を話してみようと思うようになりました。

この瞬間で私が学んだことは「英語は使わなければ成長しない」です。一見当たり前のことだと思いますが、今回の経験で身に染みて感じました。

留学に行く前、私は単語帳や文法書を使って、英語を勉強していました。当時の考えでは、実際に英語を使う前に、英語に関する知識を貯め込むことが大事と考えていました。しかし、現地で英語を使おうと意気込んでいると、言いたいことを表す表現がすぐに思いつかず、また、英語を聞く面でも、正しい発音を知らないため、聞き取れないこともあり、現地の留学生や先生との会話が弾まないことが多々ありました。その時、私は今までの勉強の方向性が

間違っていたのだと、今回の留学で気づき衝撃を受けました。英語学習の方法は英文を読めるようになる、書けるようにするなど目的によって、違うと思いますが、自分の意見を英語で話す「スピーキング力」を身に着けるには、英語を使わなければいけないと分かりました。それ以来、他国のから来た留学生の人と積極的に話し、授業でも発言するようにしました。授業中のディスカッションやプレゼンテーション、私生活に慣れきたところ、英語を聞き、使う機会が増えたため、留学の最初の方に比べると、少し英語に耳が慣れ、何を聞かれているのか薄々とわかるようになっていました。

５．留学経験を今後どう活用したいか

今回の短期間留学でわずかながら人生観の変化がありました。人生観が変わったとは少々大雑把な表現に聞こえるかもしれませんが、海外の人は多様的な価値観、宗教、国籍、ジェンダー、言語、民族、社会的階級、経済力などを持っており、そのような人と接するうちに私自身がいかに閉ざされた環境にいたのかを痛感しました。多様性が謳われる世の中で、ただそれを受け入れるのではなく、実際に世界にはどのような背景を持つ人がいるのか、目を向ける必要があったのかと考えさせられました。この考えから私は自国中心の価値観だけで物事を考えるのではなく、他国に目を向けることが大事だと感じることができました。これを機に、海外の価値観に意識を傾けるために、その国の歴史的背景と現状について学ぼうと思います。

６．謝辞

留学に行くための準備期間、留学期間、私たちがスムーズに現地に行けるよう、迅速に対応して頂き様々な手配して下さった、JTB、国際連携企画課の皆様、誠にありがとうございました。お陰様で現地での生活でも安心して過ごすことができ、無事に自国に帰ってくることができました。そして留学期間、暖かく見守ってくれたクラスメイトと先生方、家族に深く感謝申し上げます。海外渡航の経験がない家族には特に心配をかけたかと思います。留学期間でも、連絡を取り合っていた時、私自身がどれほど恵まれている環境に置かれているのかと改めて気づかされました。幼いころ、自分が留学に行くとは考えていなく、日本に死ぬまで滞在するのが当たり前だと思っていました。しかし、留学を通して言語学習だけでなく、国の文化や多様性について学び、考え深めることができました。留学に行くことによって得られたものは私にとって、貴重な財産になりました。皆様方に、ここに感謝の意を表します。

留学報告書

坂本 愛海

1． 留学先の地域や大学の印象

・リス

ペンシルベニア州には、リスが生息しています！

朝、登校する時、授業を終え下校している時、夕方頃散歩している時も見ることが可能です。

・美術館

フィラデルフィアには多くの美術館があります。

私はロディンミュージアム、フィラデルフィアアートミュージアムに訪れました。ワシントンＤＣでは、ナショナルアートミュージアムに行きました。

・国民性

知らない人同士で話すことはごく普通

歩いていると、「I like your dress!」、「I like your hairstyle!」、「Hey ! You are gorgeous」など、男女問わず話しかけてくれます。チラシ配りの女性からも「Here is coupon..By the way, You are pretty!」と働きながらもコミュニケーションをとってくれるなど、フレンドリーさを感じることができました。

ですが、アメリカ(ペンシルベニア州)は、日本と比べると、優しくない方も多く存在すると感じました。

優しくない方が多いと感じた理由としましては、道で他人が困っている場面に直面していても動じずに、そのまま歩き続けていた、無視していたことを目撃したことが留学中に何度かあった経験や、ファストフード店のレジの担当は、必要最低限のこと以外は話さない、笑顔もない方が多く働いているという傾向も見られた経験からです。

他人やお客様からの評価を気にする日本人の私だから感じたことであり、「アメリカではこれは普通のことであるのか。」と考えました。

・薬物

クラスメートから「電車の中に使用済みの注射針が落ちていた」と聞きました。

ペンシルベニア州の治安が良くないことは、留学する前から存じていましたが、驚きました。

大学の印象は非常に良かったです。

先生方は、毎朝私を見かけると、すかさず挨拶してくださりました。

２．授業やその他活動の概要

・リーダーシップクラス

良いリーダーとはどんなことが出来てどんなことを重視するのか、などどんな人物がリーダーに適しているのかを考える授業。

・コアクラス

ペンシルベニア州やペンシルベニア大学の歴史、現在について学ぶ授業。

授業の最初の１５分くらいは、先生オススメの食べ物、場所を教えてくれたり、「What did you do yesterday？」や「What is new with you？」と話し合ったりした。

・コミュニケーションクラス

コミュニケーション力を高める授業。

プレゼンをした。

３．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

・文化

一つ目は、1.で述べましたが、アメリカの店員は場所によっては不愛想です。日本の店員がお客様に尽くしすぎ、愛想をよくしすぎなのかもしれませんが。
道端でフレンドリーに話しかけてくるくらいだからこそ、客と店員も同じ立場であり、愛想を振りまく必要はないと考えているのかなと私は感じました。

二つ目は、これも 1.で述べましたが、アメリカ人は非常にフレンドリーです。
スターバックスの飲み物を持って歩いていると、自転車に乗った男性が止まって「Wait, what's the name of that menu?　Looks so good!　I must have it today... Tell me! 」と、聞いてきました。「マンゴードラゴンフルーツレモネードっていうメニューだよ」と伝えると、「まじでありがとう！今から飲みに行ってくるわ！」的なこと言ってグータッチを求めてきました。グータッチすると彼は自転車で走り去りました。

・英語表現

「What is new?」　：何か変わりはあった？

昨日やここ最近の調子、出来事を尋ねる際言う。

「Love」　：ありがとう

私がアサイーボウルを持って歩いていると、「Hey, Where did u get it?」と尋ねられたので、答えると、「Love」と、ありがとう代わりに言ってきた女性がいました。

４．自分が考える留学の成果と反省点

・成果

①　「How are you?」と調子を聞かれた際の返答のレパートリーが増えた。

私は海外に居たことがないので、以前からネイティブの返答に興味がありました。

実際に「Hi, ○○. How is it going? ／How are you?」と挨拶をして、「Fine.」や「I'm good.」、「perfect.」、「Not bad.」、「Awesome.」、「pretty bad」、「Great」など答えてもらい、様々な返答を学びました。

返答次第で、「What happen!?」と話を膨らますことも可能になりました。

② 友達が増えた。

韓国人やメキシコ人、フランス人など、多くの友達をつくることができました。休日や授業後は、韓国人の友達と遊びに行ったり、ご飯を食べに行ったりしました。遊びに行く日は、共に四時間～六時間過ごす中で、目的地までの行き方を調べる際も会話も全て英語で行ったため、長時間英語で会話する機会が多くありました。結果、英語のリスニング力、特にスピーキング力は以前より伸びたと感じます。

・反省点

特にありませんが強いて言えば、韓国人からの遊びの誘いを、「今から用意するのはだるいな。」や、「明日はきっと眠い。」という理由で、断ったことです。

私は、無気力までとは行きませんが、面倒くさがりです。、「毎日英語で会話し、課題もこなした月曜日～金曜日、毎日英語で会話し、課題もこなし、授業を終えて迎えるやっとの休日..。」と性格上どうしても考えてしまいました。今考えてみると、一か月しかない貴重な期間であるのに、私は、みんな(追手門から留学に来ている)がお出かけしている間、一日中寝ているという休日が三日ほどありました。

ですが、やはり休息も大切です。反省点として挙げていますが、何度も他国の友達と出かけたので、この点に関しまして後悔はしていません。

普段、土日は家から出ない日本での生活と比べると、アメリカでは貴重な時間とお金がかかる留学を有意義にすることが出来たと感じています。

5．留学経験を今後どう活用したいか

海外に友人ができ、今でもインスタグラムや line を通してやり取りをしています。インスタグラムに写真を投稿すると、褒めのコメントを残してくれることや、line で毎日使用言語は英語で連絡を取っている友達がいたりすること、これは留学先で友達が出来たからこそできることです。彼らと SNS 上で繋がっているおかげで、帰国から一か月経った今も、英語を使うことを忘れていません。留学は行った後が大事だとよく聞きますが、その通りで、留学から得た英語表現などを留学後も忘れないよう心がけようと考えます。

加えて話をすると、自分に自信や度胸をつけることができました。

私を含め、追手門から来た学生は 6 人で、他は全員知らない。最初は自分から話しかけるのは恥ずかしい　と考え行動することに躊躇していた私ですが、「こうして声をかけようか迷っている時間も貴重な時間だ！」と考え、何度も自分から行動できたことで、度胸がつきました。そして、英語しか使えない状況で一か月間生活することを達成した経験から、英語

を話すことにも以前より自信がつきました。

6．謝辞

親宛

お父さん、お母さん

留学、行かせてくれてありがとう。

今は学業で精一杯でバイトも出来ず、授業費、通学費、食費、留学費、お金のことは、頼りっぱなしで申し訳ないです。

そこらの家族と比べものにならんくらい、親と子の仲が良くて何でも相談できて、何不自由なく生活させてくれて、ここに生まれてきてよかったなと日々感じます。

職に就いたら、いっぱい親孝行させてね。
いつもありがとう。

愛海

ペンシルベニアの先生宛

Hi, professors.
How are you doing??
I am doing well :)

I am sending this message to thank you for your excellent teaching.
And tell "miss you" ...

You taught me about leadership, communication skill, Philadelphia, and the University of Pennsylvania.
I enjoyed each class!

Thank you so much!

Manami

訳

(こんにちは。
元気にしていますか。私は元気でやってます。

素晴らしい授業をありがとうということと、寂しいと言いたくてこのメッセージを送っています。
あなた達は「リーダーシップ」、「コミュニケーション力」、「フィラデルフィア」、「ペンシルベニア大学いて教え」についてくれました。
授業、とても楽しかったです。
ありがとうございました。

まなみ)

留学報告書

小林 美緒

1．留学先の地域や大学の印象

私はアメリカ合衆国のペンシルベニア州、フィラデルフィアにあるペンシルベニア大学に短期語学留学で行きました。ペンシルベニア大学は、Benjamin Franklin が 1740 年に創設し、全米で初めて"University"と名付けられた教育機関です。大学内は、１つの街のように飲食店、スーパー、雑貨屋、薬局など沢山のお店が立ち並び、生活を送っていく上で不便に思うことはありませんでした。また、歴史ある建物や教会が多く見られました。地下鉄の駅があったり、バスも沢山走ったりしていたので交通の便も良かったです。ですが、大学の校舎１つ１つが大きかったので初めの頃は教室を探すのに苦労しました。大学内とは反対に市内に行くと、沢山のビルが立ち並びデパートがあったり、美術館や図書館があったりと大学内とは違った魅力を感じることができました。ただ、地下鉄は日本と違って治安が悪かったという印象を持ちました。

2．授業やその他活動の概要

大学での受講プログラムは 8:30 から 12:30 までの午前中に選択授業を 2 時間とコアコースの授業を受けました。そして 13:30 からは午後のアクティビティが平均して週に 3 回ほどありました。私は選択授業で、「Communications and Social Media 」と「Leadership and Team-building」の授業を取っていました。私たちのクラスは日本人と韓国人の、合わせて 8 人で授業を受けていました。どちらの授業もペアワークやグループワークが非常に多く、常に自分の意見を持って相手と話し合うことを意識して授業に取り組みました。

「Communications and Social Media 」のクラスではグループに分かれ、Social Media と Crisis Communication について 2 回英語でプレゼンテーションに取り組みました。

「Leadership and Team-building」のクラスでは、リーダーシップのあり方について具体的な例を挙げて１人でプレゼンを作成し発表をしました。

コアコースの授業ではペンシルベニア大学の創立者 Benjamin Franklin と、Immigration and Neighborhoods について学びました。このクラスでは午後からのアクティビティで Benjamin Franklin の博物館に行ったり、講義で移民についての話を聞いたりしてフィールドワークを沢山取り入れながら授業を受けました。

午後からのアクティビティでは、それぞれの専門分野の講師に来ていただき講義を受けたり、美術館や博物館、市場に行ったりなどさまざまな活動に取り組みました。1 番印象に残っているのは、留学をした 1 週目に初めて地下鉄に乗って市内へ行き博物館やその周り

を先生が案内してくださって散策をした日です。初めて見る光景ばかりだったのでとてもわくわくしましたし、同じプログラムの人に話しかけてお友達ができた日でもあったのでとても印象に残っています。

3．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

私が留学に行って学んだことの中で特に印象が強かったのは 3 つあります。

1 つ目は、チップの文化です。

以前からアメリカにチップの文化があるのは知っていましたが、実際にレストランで経験してみてどれくらいのチップを払うかを自分で考えて合計の値段を計算したり、支払う時に値段を選んで払ったり、それぞれのお店によってチップの払い方が違ったのでその仕組みに慣れるまでにとても苦労しました。日本にはチップの文化がないので、とても新鮮に感じましたし、自分が丁寧なサービスをすればその分チップをもらうことができるのでその部分だけを見れば良い仕組みだなと感じました。

2 つ目は、人柄の違いです。

アメリカで過ごしてみて、可愛い服を着ていたらすれ違った人に「that’s nice 」や「so cute 」など声をかけられたり、お店でお会計をする時には必ず「How are you?」と聞かれたりなど知らない人にも気軽に話しかける人が多い印象を受けました。日本ではそのような場面に出会すことは少ないので新鮮に感じました。また、日本では電車は正確な時間で到着し、電車を待っている間は 2 列に並んでいますが、アメリカでは電車がいつ来るか分からなかったり、停車場所がずれるとバックしたり、列に並んで待っている人はほとんどいませんでした。このように地域のルールには人柄が反映されているのかなと感じました。

3 つ目は、積極性の違いです。

私は授業を受けていてこれを 1 番感じました。同じクラスに韓国人の子とスペイン人の子がいました。授業の中で発表する時や先生に問いかけられた時、すぐに発言したり自分の意見をしっかり持っていたりする子が多くて驚きました。どちらかと言えば、日本人は遠慮しがちで同調性が強いので授業中に積極的に発言したり、自分の意見をしっかり持ちそれを相手に伝えたりすることができる人が少ない印象があります。そのため、グループワークやペアワークが多かった授業ではみんなから沢山の刺激と学びを得ることができ、とても有意義な時間が過ごせたと感じました。

4．自分が考える留学の成果と反省点

私が考える留学の成果と反省点は 2 つずつあります。

成果の 1 つ目は、コミュニケーション能力がついたことです。第 1 としてアメリカなので話されている言語は英語です。そのため英語で会話しコミュニケーションを取る必要がありました。ですが、私は英語で会話をする事に自信がなかったので、始めの頃は相手の言

っている事が理解できなかったり、自分の伝えたい事を英語で上手く表現することができなくて会話を続けることが難しいかったりして悔しい思いをすることが沢山ありました。そのため、私は失敗を恐れずにとにかくチャレンジして力をつけていくしかない、この機会を無駄にしてはいけないと思い、大学の先生や同じプログラムに参加している友達と積極的に会話をしたり、授業内で行われたグループワークやペアワークで自分の意見をなんとか相手に伝えられるように自分の知っている単語を組み合わせ、ジェスチャーをしたりして頑張りました。そのおかげで相手の事を少しでも知ることができ、文化や話す言語が違っている人とでもコミュニケーションを取ることができるようになりました。

成果の 2 つ目は、各国の文化やルールの違いを学び日本の良さを感じることが出来たことです。アメリカと日本では沢山の文化の違いがあります。例えば、部屋の中で靴を履く、レストランに行った時やホテルを使った時はチップを払う、合法の薬物がある、サマータイムのせいなのか日中の時間帯が長いなどがありました。初めの頃はその違いに驚き、戸惑うことが沢山ありましたが、文化の違いが生じる部分に次第に興味を持ち、人や街の様子を観察して沢山の気づきを得ることが出来ました。また、違いを発見するごとに日本の良さを感じる瞬間が沢山ありました。特に差を感じたのはお店の店員さんの接客態度と治安についてでした。チップを払うレストランは例外ですが、ファストフード店や服屋さんで買い物をする時、いかに日本の店員さんたちが丁寧にお客様の接客をしているかを見に染みて感じることが出来ました。また、アメリカでは合法な薬物があったり、銃の所持が犯罪ではなかったり、日本よりも危険なことが沢山あり、過ごしている中でその危険さを肌で感じることがあったので、普段の私たちの生活環境が安全である事を改めて感じることになりました。

反省の 1 つ目は、英語の知識がまだまだ足りなかったことです。実際にアメリカに行き現地の学校で授業を受けてみて、自分のレベルが低かったとこを実感しましたし、単語を聞き取れても意味が分からなかったり、相手との会話を続けられなかったりして悔しいと沢山感じました。また、講師の先生がそれぞれの専門分野の講義をしてくださったので話を聞いていましたが、ほとんどの内容を理解できず、内容がわかっていればもっと有意義な時間が過ごせたなぁとか講師の先生に質問することが出来たのになぁと思うことが沢山ありました。

反省の 2 つ目は、日本人同士で日本語を話しすぎたことです。初めの頃は現地に友達もおらず、分からないことが沢山あったのでお互い協力するために日本語で沢山話していました。途中からは何度も「私たちも英語で会話しよう‼」と言って頑張って英語で会話する事を意識していましたが、大半は日本語で話してしまっていたので後から振り返ってみてもったいないことをしてしまったなと感じることがありました。せっかくの学ぶ機会を少し無駄にしたのではないかと思いました。

5．留学経験を今後どう活用したいか

今回の留学経験で学んだことや感じたことは自分の価値観に取り入れて、これから文化

やルールについて違う価値観や考えをもつ人々と関わったり、会話をしたりするときに相手の事を理解できるように活かしていきたいと思います。

また、今回の留学を終えて自分の英語の力がまだまだ足りていない事を 1 番実感したので、これからの英語の勉強に対する取り組み方や意識を変えていきたいと思いました。実際に日本から出て現地に行くことでしか感じることが出来ないことや学べないことが沢山あると気づいたのでその部分は大切に持ち続けたいと思いました。

さらに、この留学で沢山の人との繋がりを持つことができたので、この留学で終わりにせずこれからもずっと繋がっていけるような関係にしていきたいと思いました。

６．謝辞

今回の国際学部グローバルスタディーズ専攻夏期短期語学留学において多くの方々にサポートしていただきました。

両親には、金銭面や日々の生活の面で沢山支えていただきました。ここに深謝の意を表します。

担当教員の北村健二先生には、留学前の学習において終始適切なご指導を賜りました。感謝申し上げます。

国際連携企画課ならびに JTB の皆様には、留学実施にあたり様々な場面で情報提供や連絡をしていただきました。厚く御礼申し上げます。

最後に留学を共にした皆様には、互いに励まし協力し合いながら沢山助けていただきました。ここに誠意の意を表します。

留学報告書

川口 由羽

１．留学先の地域や大学の印象

最初大学に来た時、「え、これが大学？」と思うくらいとても広く、大学自体が１つの街のようでした。大学の敷地内には、スーパーやレストラン、薬局などがあり生活するのにとても便利でした。生活するのに関しては、大学外に出なくても済みました。また、大学内には警察が多く見回りをしていたり、電話等が置いていて、常に大学に連絡が取れる状態にあったので、安心して過ごすことができました。大学敷地内に路面電車が走っていた事に驚きました。現地の人とはあまり話す機会がなかったのですが、定員さんや街の人は優しく、訪ねたら分かるように丁寧に説明して下さったり、スーパーでぼーっと突っ立っていたら「どうしましたか？」と声をかけてくださったり、すごく好印象を受けました。たまに、愛想の悪い定員さんがいたりしますが、アメリカなのでその辺も文化の違いだと面白く受け止めました。大学の先生は皆明るくて、朝学校に行くと元気に挨拶して下さったり、私たちのことを多分知らないであろう先生方も笑顔で挨拶して下さりました。学校ではすごく居心地が良かったです。

２．授業やその他活動の概要

授業は月曜日から金曜日までの午前中毎日ありました。時間としては１日４時間ほどで、1 週間に 3~4 回午後にフィールドワークがありました。授業の内容としてはまず、3 つ授業がある中２つは事前に科目を選ぶことができました。私はコミュニケーションとリーダーシップを選択しました。残りの１つはホームクラスのような感じで選ぶ事の出来ないクラスでした。クラスのメンバーは、留学に行った同じ大学の６人と東京から留学に来ていた１人と韓国人１人の合計８人の少人数クラスでした。今回のプログラムに来ていた留学生のほとんどが韓国人でした。また、フィールドワークでは、フィラデルフィアの有名な美術館に行ったり、野球観戦に行ったり、レクチャーがあったり、色々な体験が出来ました。最後のフィールドワークではワシントン DC に行きアメリカの文化やモニュメントに触れる事ができました。授業もありフィールドワークもあり、結構ハードなスケジュールでしたが、とても充実したプログラムでした。またこの留学をしてみたいと思うほど楽しい日々を過ごせました。授業内容にはとても満足しています。

３．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

私が留学に行って学んだ事は 3 つあります。1 つ目は、挨拶の表現についてです。最初に大学へ行った時、私は Hello しか言葉が出ませんでした。しかし、相手は Hello と言ったあと How's it going や How was yesterday など、話を広げるように私に話してきました。最初はそこに驚き、英語なのでなおさら言葉が出ず、言いづまってしまいましたが何日がすると、スラスラと受け答えが出来るようになりました。あいさつしか無い日本に比べて、アメリカの対応を身近に感じることが出来ました。

2 つ目は、信号機とトイレの違いについてです。私がアメリカに行って 1 番驚いたのが、信号機です。車道の信号機は日本と同じなのですが、歩道の信号が異なっていました。アメリカの信号機はカウント制になっていて、最初はこのカウントが止まるべきなのか進むべきなのか分からずずっと立ち止まっていました。その後他の人が渡るのを見て理解できましたが、日本との違いに戸惑いました。また、トイレでは日本と比べて上下がかなり空いていて、足や下に置いている荷物がはっきりと見えるほど空いていました。ドアを閉めても少し隙間が空いていて、「プライバシー的に大丈夫かな」と思ったり、最初は戸惑いが隠せませんでした。1 ヶ月経ってもどうしても空いていることが気になり、慣れませんでした。でも、これも各国の文化なのだと面白く思いました。身近にアメリカの文化を感じれて、実際行ってみると聞いてたこととは少し違ったり思ったより日本と似てるところもあったり、文化の比較をすることがとても楽しかったです。また、アメリカの文化をもっと知りたいと思いました。

3 つ目は、普段英語を勉強していてもいざ、話すとなると言葉が出てこないことです。普段から文法や単語など勉強しているけれど、アメリカに行って実際話すとなると「この表現合ってるのかな？」とか、「どうやって言ったらいいのだろうか」というような疑問がたくさんでてきました。普段から書く勉強だけでなく、話すことも大切だと改めて実感しました。また、自分が話せないことに悔しくなり、もっと勉強して話せるようになりたいと思いました。

４．自分が考える留学の成果と反省点

私が考える留学の成果は、英語は道具であることを実感できたことです。アメリカに行くと何をしようとしても英語で話すしかなくて、スーパーでかいものをしようとしても、学校で授業を受けようと思っても全てに英語が必要であり英語がある上で目的を果たすことが普通でした。アメリカにいると、目的が英語を勉強することではなく、英語を使って何をするか、学ぶのかが目的へと変わっていきました。いつの間にか頭の中では、自然と日本語から英語に翻訳するようになっていました。このように実感できたのは、留学に行ったからこそ味わえた体験でした。反省点は、授業中以外も英語で喋ろうと思っていたけれど、結局日本語で話してしまったことです。寮などでも英語を話さないと成長出来ない

と分かっていても、日本語の方が楽でほとんどの時間日本語で話してしまいました。もっと皆で英語を話していれば良かったと少し後悔しています。次の留学のチャンスがあれば徹底的に英語やその地の言語を話すことを意識したいと思います。

５．留学経験を今後どう活用したいか

私はこの留学を経て、自分の内向的な性格から外向的な性格へと少し変化した気がします。海外に行くことで、日本では受けることの出来ない刺激や感覚があり、自分を成長させるいい機会でした。また、英語を実践することで、普段の勉強では味わえない楽しさや面白さを発見することができました。これからは、この留学で学んだ英語を話すことは楽しいというポジティブな考えを勉強に組み込みたいです。そして、話せる楽しさを実感できることを自分だけでなく、友達や後輩、今回留学に行けなかった人にどんどん伝えていきたいです。同時にこの留学で自分の未熟さにも気づいたので、より一層勉強に力を入れようと思います。

６．謝辞

まず、私が留学に行くチャンスを与えてくれて、多大な費用を出してくれた両親に感謝しています。そして、留学に行くために色々準備して下さったり、安全を確保して下さった先生方や JTB の方々、国際連携企画課の方々に厚く御礼申し上げます。また、アメリカ現地では、英語が理解できない私たちに対して理解できるまで優しく、何度も説明を重ねて下さった先生方には本当に感謝しています。私が無事に行って帰って来れたのは、たくさんの人々の支えのもとであり、私はとても恵まれた環境にいるのだと、この留学を通してさらに実感することができました。この留学の経験を恩を仇で返すことのないよう、日々精進して参ります。最後にもう一度この留学に関わって下さった皆様に感謝申し上げます。

留学報告書

髙橋 恭佑

１．留学先の地域や大学の印象

最初に留学先のフィラデルフィアへ訪れた際、University city という地名を目にし、町全体がペンシルベニア大学になっていることに驚きを覚えました。実際に、追手門学院大学は総持寺キャンパスや安威キャンパスのように、キャンパスがあるだけですが、ペンシルベニア大学は、病院や駅など、そこにあるすべての建物が大学と提携していたり、大学関係の建物だったりしたので、この大学の大きさと、追手門学院大学とのあまりの違いに驚かされました。

僕が他に感動したことは、ペンシルベニア大学のカラーに景観が統一されていて、街を歩いていて飽きないように感じました。特に、レンガ作りの建物がほとんどでそれが印象的でした。また、日本と比べて緑が多く、そこら中で、芝生の上や木陰などでも人が涼しそうに居眠りしていたり、休息をとっている人や、さらには野生のリスなどが見受けられ、これは日本ではあまりみないアメリカならではの光景だと感じました。

また、フィラデルフィアというと、留学前はあまり治安が良くないと聞いていたので少し不安でしたが、実際に市街地へ出向いた際にも、特にそのようなことは感じなかったので、実際に行ってみないとわからないことも沢山あるなと感じました。

２．授業やその他活動の概要

まず、ペンシルベニア大学の学生として、はじめてキャンパスへ訪れた際の感想は、率直に、全然留学きた感じがしないという感覚でした。そこにいた学生ほとんどがアジアから来た子たちばかりだったので、正直アットホーム感も感じ、すぐにまわりの子たちと仲良くなれたので、悪いことではなかったのかなと感じます。

授業自体は、みんな先生が優しかったので、ゆっくり話してくれたこともあり、理解に苦しむことは少なかったです。課題に関しても、Canvas をつかっていたのですが、シンプルなものばかりだったので、困らず全て迷わず取り組むことができました。量もそれほど多くなく、感想を書くことがほとんどでしたが、特に困ったことも迷ったこともなかったです。僕自身、日本にいる時より楽だなと感じるほどでした。ただ、ウェブサイトを作成する課題があったのですが、それだけ最初の設定の段階で少し手こずりましたが、それもだんだんと慣れてきて容易く取り組めるようになりました。

課外活動は、たくさんあったのですが、個人的には野球観戦が 1 番印象に残っているかなと思います。フィラデルフィア・フィリーズと、シカゴ・カブスのゲームを観戦したので

すが、結果はフィリーズが 2-15 という悲惨な敗戦となったのですが、相手のカブスには日本人選手の鈴木誠也選手がいて、その選手がホームランを打つなど見どころが多い試合でした。しかし、夜遅くなりそうだったので、僕は 7 回で帰ってしまったので、ホームランを見ることはできませんでした。

また、ワシントン D.C.への課外活動もホワイトハウスなどいろいろな名所をまわることができて非常にいい経験になりました。このワシントン D.C.では、はじめて話す韓国の子たちと仲良くなっていっしょにまわったのですが、観光しながらいろいろな話をできてとても楽しかったです。

他にも課外活動はたくさんあったのですが、フィラデルフィアの市内観光では、イタリアンマーケットとレディングターミナルマーケットが 1 番印象に残っています。イタリアンマーケットではピザやウォーターアイスなど様々な美味しいものを食べることができてよかったです。ターミナルマーケットでは、フィリップ名物のフィリーチーズステークスをいただいたのですが、正直僕の好みではありませんでした。

３．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

今回の留学で学んだことはたくさんあります。

まず１つ目は、今まで自分は狭い世界で生きてきたのだなということです。すこし複雑な話になりますが、日本ではあたかも韓国の国民人々が日本に対するマイナスなイメージを抱いているように報道されているように感じます。しかし、実際のところは全くそんな感じはなく、寧ろ僕が日本人ということに興味津々でみんな積極的に仲良くなろうとコミュニケーションを図ろうとしたり、楽しく接してくれました。メディアではあたかも対立を煽るような報道をしますが、実際はそんなことはなく、韓国の人々が日本に対するマイナスなイメージを持っているであろう、というような偏見を持っていたのは寧ろ僕たち日本人であったのではないかとさえ感じました。

２つ目は、意外にも人種差別の少なさです。正直アメリカでは人種差別をうけるだろうなというか、その覚悟すらしていましたが、この 1 ヶ月と少しの間で一度もそのような経験をすることがなかったので、これも自分が外国人に対する勝手な偏見だったのではないかとさえ感じました。そもそも人種差別どころか、僕がアジアからきていて、ネイティヴの言葉が聞き取れないというのを感じ取ってゆっくり喋ってくれるなど、とても丁寧に親切な対応をしてくださったので、こういったことも実際にその場へ行ってみないとわからないなとか思いました。

４．自分が考える留学の成果と反省点

この留学で、自分が一番成長したなと思うことは、何事も一人でする力です。

アメリカでは、日本のように家族はおらず助けてくれる人も少ないので、自分でどうにか

しないといけない場面が多かったので、そこは成長したなと感じます。

言語面では、頭の中で訳さずにそのまま英語の意味で話せる力が少し身についたなとほんの少しながら実感します。はじめて向こうで英語でコミュニケーションをとったのは、韓国人の子との自己紹介と日常会話だったのですが、相手がペラペラで喋れると、自分も触発されて英語でポンポンと単語や文章が出てきたので、この時に少し英語でのコミュニケーションにも自信がつきました。その自信からか、たくさん英語で他の国から来た留学生とコミュニケーションをとれるようになり、さらに自信がつきました。ただ、相手がネイティヴとなると話は別で、留学生が話す英語とネイティヴが話す英語では当然のことなのですが全く別物で話すスピードもですが、使う単語ひとつひとつが分からなすぎて会話の際にも聞き返すことや翻訳機を使う始末になってしまったのがとても悔しかったし、積み上げてきた自信も少し折れそうになりました。なのでそれが僕の反省点であり、改善していかなければならないことだと思います。

５．留学経験を今後どう活用したいか

今回の留学で、多言語の人とコミュニケーションをとることの楽しさや、ネイティヴの人と話した時に上手いこと話せなかったことの悔しさなど、よかったこともそうでないこともたくさんありました。なのでこの経験を糧にし、今後の英語の勉強のモチベーションにしていけたらなと思います。

精神面では、特に最後の 1 週間弱の隔離期間で 1 番鍛えられたかなと感じます。言葉の通じない国での生活で、何事もほとんど一人でしなければいけなかったので、不安や怖さもありましたが、それを乗り越えることができたので、自信につながったので、これからの海外に再度挑戦することに前向きになりました。

６．謝辞

JTB や先生方、留学中支えていただいたたくさんの方々、1 ヶ月という長い時間お世話になりました。ありがとうございました。自分のコロナ陽性により色々な方々にご迷惑をかけてしまいすみませんでした。そんな中、飛行機の手配をしてくれた方々、励ましのメッセージを送っていただいた先生方、お寿司を届けてくれた郷田さん、自分の留学が上手くいくように支えていただいた全ての皆様、本当にありがとうございました。

留学報告書

西田 空良

1．留学先の地域や大学の印象

まず初めに現地について感じたことは、気候の違いです。とても暑い日本から来た僕たちにとってカリフォルニアの気温はとても寒かったです。ですが、それ以上に感じたことは一軒一軒のでかさです。日本ではなかなか見ないほど立派な家がずらりと並んでいました。そして到着した日に大学見学に行ったのですが、大学の敷地がひろすぎてとても驚きました。日本の大学でも大きいところは大きいですが、そんなことをはるかに上回るくらいアメリカの大学の敷地は大きかったです。

2．授業やその他活動の概要

僕はバークレーの授業でアカデミックスピーキングの授業を履修していました。その授業に参加した初日は緊張や不安がありながらも心のどこかで楽しみさも抱いていました。ですが、いざ授業が始まるとすぐに僕の楽しみさが消えてなくなりました。先生の言っていることが何一つわからず一瞬にして帰りたいと思いました。それだけではなく周りの生徒はみんな英語がペラペラでとても惨めな気持ちになりました。ですが、まだ始まったばかりだったしがんばればなんとかなると思いつつ頑張って先生の言っていることを理解しようと耳を傾けました。でもやはりなにを言っているのか何一つわからない状態で刻一刻と授業は進んでいきました。授業も中盤になりかけたころ先生が何かを言い周りの生徒が何か作業をし始めました。何やっているんだろうと思いつつも何するかわからないのでただひたすらうつむいていました。数分経った頃、先生がみんなに声をかけると一人ずつプレゼンが始まりました。何もわからなっかったのに急にプレゼンが始まったためとても焦りました。帰りたい気持ちを押し込めて、何のプレゼンをしているのか分析して自分の好みの場所を紹介するプレゼンであることがわかりました。その時は何とか自分の英語をしゃべれる範囲で乗り切りました。ですが初回の授業からこのような内容だったため、その日にはもうこの授業に行きたくないと気持ちをふさぎ込んでいました。ですが、同じ授業を取っている子に頑張ろうといわれたのでそのうち慣れると自分に言い聞かせ、翌日の授業に参加しました。ですが、状態は良くなるどころかもっとひどい状態になりました。その日の授業も何もわからず聞いていると、何やら新聞の記事を切りっとった紙を渡されました。何をするかはわからなかったですが、みんなが記事を見ていたので僕も自分の記事に目を通しました。読んでみてもやはり何が書いているかはわかりませんでした。その数分後に5個ずつ机を向かい合わせにして対面で自分の記事の要約を向かいの人に伝えるアクティビティが始ま

りました。当然何をするかわからなかった僕が要約なんかできてるわけもなくこのアクティビティは無理だと直感したため先生にこのアクティビティは僕にはむずすぎると英語で伝えました。ですが、先生から帰ってきた言葉はこの授業はスピーキングの授業だから挑戦してみてとのことでした。どうすることもできなかった僕は計五回向かい合ったすべてのクラスメイトに私は要約ができなかったのであなたのだけ聞かしてくださいの一点張りでした。あの時間は本当にみじめでつらかったのを今でもはっきり覚えています。その翌日からその授業には行けませんでした。

もう一つのユーモアの授業は、アカデミックスピーキングの授業の影響で行けていないときもありましたが、先生がとてもいい人で、僕たちのためにゆっくりわかりやすく話してくれたりしてくれてとても自分のためになりました。周りのクラスメイトも優しい人ばかりで何回も助けられました。そのユーモアのクラスで週末にスナップチャットという海外のお笑いのようなものを見に行きました。周りの人は爆笑していましたが、僕は何結ってるかわからなかったので全く面白くなかったです。

3．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

僕が留学で学んだことは、留学に行く前に勉強をしていなかった後悔です。何を言っているかわからない僕に文法など教えられてもわかるわけありません。ですが、アメリカの文化なら何個か学んだことがあります。アメリカのユーモアの一例：My pen is huge = My penis huge これを聞いてしょうもないと思いました。ほかには自動車は右側通行や、タピオカの店が多いなどです。やはりハンバーガーはでかくておいしかったです。

4．自分が考える留学の成果と反省点

僕がこの留学で得た成果はアメリカの国を堪能できたこと、それ以上に最後の方では授業が楽しくなり、自分から学びたいという気持ちが芽生えたことです。最初の方はメンタルがぼろぼろでしたが、最後の方ではスコット先生のミーティングなどを積極的に参加できていたなど頑張ることのできる自分を見つけることができました。

僕がこの留学で感じた反省点は、やはり留学前に全然勉強していなかったことです。僕は正直留学というものを甘く見ていました。行く前までは、何とかなるでしょという根拠のない自信がありました。先生も優しいだろうし、周りの生徒ともすぐ仲良くなれるでしょなんて思っていました。ですが、この留学での最大の壁は言うまでもなく言語の壁でした。

5．留学経験を今後どう活用したいか

僕はこの留学経験を生かしてひたすら勉強をします。そして次は、ある程度しゃべれるようになってもう一度留学に行こうと思いました。もし次に行く機会があれば今回の留学の

ように周りに友達も僕だけのために対応してくれる先生もいません。完全に自分だけでなんとかしないといけないので今回よりはるかにしんどくなるのはわかっています。ですが、自分の中で地獄のような思いをしたこの留学経験があるからこそ次に行くときは気を抜かず事前に準備することができます。そして今回無駄にした分よりもより多くの知識を身に着けに行きたいと考えています。次に行くなら TOEIC の点数もいるので猶更頑張らないといけません。なので僕はこの留学経験を生かして次につなげるための勉強をします。

6．謝辞

今回の留学では両親並び祖父にとても感謝しています。僕の留学費を出してくれたのは祖父なのであまり成果を残せなかった後悔とともに感謝をしています。そして、両親には留学中の食費や遊びの金など留学中に使ったお金の大半を出してもらいました。それとともに留学中の心の支えにもなってくれました。留学中はお金を出してもらっていたので学校に行けておらずとても申し訳なく思っていました。そのことを親に言っても気にしなくていいから自分なりに頑張ってと優しい言葉をかけてくっれました。このおかげでなんとか頑張ることができました。本当に感謝しています。

親だけでなく、マージさんにもとても感謝しています。留学先の授業についていけなかったのは自分たちの勉強不足なだけなのに自分たちの気持ちを汲み取って自分たちのためにいろいろと対応してくれたことです。この人がいたからこそ僕は最後の方あきらめずに頑張れたと思います。

留学報告書

新谷 美音莉

1．留学先の地域や大学の印象

寮に向かう途中に通った高速道路は道が広く車線が多かったです。町中にある標識は日本と比べて大きく、体の半分以上の大きさになるものがあり驚きました。歩行者信号は青信号の時間が短く、車両信号は長いです。また、歩行者信号がなかなか青に変わらない場所もあり、信号を守らない歩行者がほとんどでした。信号がない横断歩道を渡ろうとすると車は必ず道を譲ってくれました。アメリカで過ごした中で、日本のように車が通るのを待ってから道を渡ることは本当に経験しなかったと感じます。

喧嘩を見かけたり、拳銃を突きつけられたりすることはなく、治安は比較的落ち着いていると感じました。留学生のための寮がある地域だったため、アメリカ人に限らず、アジアやヨーロッパ圏など様々な国の人がいました。特にアジア人は多いと感じました。日本人の方に、「日本人ですか？」と話しかけられたことも何度かありましたが、日本人は少ないという印象でした。

寮の近くには、コロナウイルスの影響からか、元々は店内で食べられる飲食店もテイクアウトのみで経営している店が多かったです。注文をするときは、口頭ではなく、店の外にあるタッチパネルで注文をする必要があり、支払いはクレジットカードでしかできなかったです。店内で食べられる店でも同様のシステムがあり、この地域では店員と話す機会はあまり多くなかったです。食べ物のサイズは大きく、例えばピザなら、日本の約２倍はあります。また、日本よりも鳩の数がとても多く、かなり人慣れしています。そのため食べ物を持っていると躊躇なく近づいてくるので、注意が必要です。

ホームレスが当たり前におり、ただ道に寝転がっている人、手を伸ばして物乞いをする人、楽器を弾いている人など、様々でした。

寮の入り口はユニバーサルデザインで、坂と階段があり車いすの人でも入りやすくなっていました。また、寮の警備システムはしっかりしていました。寮に入る際には専用のカードキーが必要で、エレベーターや階段を使う際にもカードキーが必要です。自分の部屋に帰るまでに 2 回カードキーを使う箇所があります。部屋にはベッドと机のみがあり、洗濯機や洗面所は寮の共同スペースにあります。洗濯機は別途料金が必要で、洗濯と乾燥を合わせて約 4 ドルです。そのため、洗濯を毎日はせず、何日かに 1 回で回したり、友達が洗濯をするタイミングで一緒に回してもらったり、なるべく工夫して出費を抑えていました。シャワーとトイレは男女共同であまりプライバシーがない印象でした。また、私は肌が弱いからかもしれませんが、最初の 1 週間ほどはシャワーのお湯で体が痒くなったり、赤くなったりしました。帰国するころにはそのようなことは起こらなかったので、体が慣れていなかった

のだと感じます。

私が行った地域では飲食店やコンビニにトイレはほとんどありませんでした。そのため、「PUBLIC RESTROOM」という町中にある公衆トイレを利用する必要があります。トイレがある店や寮、食堂のトイレには基本的に紙の便座カバーがあり、コロナウイルスへの対策がされていると感じました。しかし、日本ほどは清潔に保たれていません。

食堂の御飯は日本人の口に合うと感じました。日本料理や、中華料理など、毎日様々なメニューが提供されました。また、肉料理がある際には、同時にビーガン料理も用意されており、特定の人に対する配慮もされていました。しかし、どれを食べても味つけが濃く、美味しい反面、体には良くなさそうな印象でした。また、食堂はバイキング形式であり、なくなった御飯は補充されるので、どの時間に行っても食べられます。そのため、御飯の余りが出て、食品ロスが多いのだろうなと感じました。食堂の従業員は半分以上マスクをしていませんでした。また、勤務中でもイヤホンをつけて音楽を聴いたり、従業員同士で話したりしており、和やかな雰囲気で日本ではありえない光景だと感じました。

寮から 10 分ほど歩いたところには、学生が無料で使えるジムがありました。誰でも簡単に使えるランニングマシンから、バーベルやダンベルなどの本格的な道具まで揃っていました。夜の 10 時まで営業しているので、授業の後に行ったり、夕飯の後に行ったりすることができます。

大学の敷地はとても大きく、いくつもの建物がありました。そのため、自分が授業を受ける教室がどこにあるか分からず迷いました。敷地内には図書館もあり、外装も内装も美術館のようでした。リスが敷地内のいたるところにおり、中には近くまで寄ってくるリスもいました。

2．授業やその他活動の概要

私は 2 つの授業を受けました。

1 つ目は「Business Vocabulary」 です。この授業では、名前の通りビジネスに関する事柄について取り扱っていました。毎日の課題として「Word of the day」というものがありました。ビジネスに関係していると思う単語を調べ、その単語の定義や例文、どうしてビジネスに関係すると思ったのかなどを前に出て発表するというものです。この課題はあらかじめ準備するものですが、授業内では、その場でグループを作り、ディスカッションをして考えを皆の前で発表することが基本でした。そのため、周りの人とのコミュニケーションが必要で、苦戦しました。

2 つ目は「Food for Thought」です。この授業は、先生から渡されたクイズ形式のプリントについて二人組で話し合って答えを出し、後で先生に当てられた人が答えたり、まずは一人で考えて後で他の生徒と意見を交換したりするというものでした。授業後の課題は、社会見学のようで面白いと感じました。例えば自分で近くのスーパーに行き、プリントに書かれたお題について調べるというものです。自分の国と比べて果物の硬さはどうかや、値段はど

うかなどのお題がありました。最後の授業では先生がおすすめのお菓子を用意してくれて、小さなパーティーをしたので楽しかったです。その中で私が好きだと思ったお菓子は実際にお土産として買って帰りました。

3．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

授業中は生徒が好きなように発言し、先生もそれに対ししっかりと返答をしていました。そのため、日本の授業と比べると発言しやすいように感じました。また、誰かが発言をしている途中で他の人が「こういうのもあるよ」と割り込んでも嫌な感じはせず、むしろ割り込まれた側は話を聞いてうなずいており、お互いがお互いの意見を尊重し合っているというのがよく読み取れました。

このことから、自分の意見は周りの目を気にせず発表することが大事だと改めて実感しました。そして、自分の意見を持つことは大事ですが、それを貫き通すのではなく、あくまでそれは１つの意見として、他の意見を素直に取り入れることも重要だと感じました。

4．自分が考える留学の成果と反省点

私が考える留学の成果は、少しですが英語のリスニング力が向上したことです。初日の授業では、何を言っているのか少しも理解できず、ただ聞いていることしかできませんでしたが、最後の授業では聞き取れる単語の数は増えていました。それでも、頭の中で文章を整理して全体で何を言っているのかを理解することはできませんでした。そのため、ただ単語を聞き取る力が少し身についただけなので、あまり喜んではいられないと感じます。

もう１つの成果として、海外に行ったことで自分の中の世界が広がったことです。日常生活の中でも、授業の中でも、日本にとっての当たり前はアメリカにとっての当たり前ではありませんでした。そのため、アメリカにいるだけで刺激を受けます。

また、授業内の課題が最後までできなかったものが多いのは反省点の 1 つです。難しくてなかなか進められないと諦めがちになってしまいました。授業に関しても周りの人のレベルの高さに圧倒され萎えてしまったので、積極的に授業に取り組めなかったことは反省点だと感じます。

5．留学経験を今後どう活用したいか

自身の英語力の無さを身をもって感じることができたので、勉強へのモチベーションを向上させるために活用したいと感じます。

また、日本語が通じないという不安がある中で、少しでも分からないことがあれば英語で話さなければなりません。しかし、周りの人に助けてもらいつつも「とりあえずやってみる」でどうにかなってきました。そのため、日本でこれからを過ごす場合も、「とりあえずやっ

てみる」という精神を忘れないようにしていきたいです。

6．謝辞

今回の留学で関わったすべての方々にまずはお礼申し上げます。

出国前には、分からないことを何度も国際連携企画課の方に質問させていただきました。JTB の方々にはビザ面接のための手続きや飛行機の手配など、私一人ではできなかったことを多くご協力いただきました。本当にありがとうございました。

留学中には郷田さんに困ったことをすぐに連絡してしまっていたので、本当に忙しくさせてしまっていたと思います。ご迷惑をおかけしました。しかし、郷田さんのおかげで解決した問題が多くありました。日本に到着するまでサポートをしていただき、ありがとうございました。また、出国前から関わっている先生だけでなく、直接関わりのない先生方もズームミーティングの際に気にかけてくださっていたので、多くの方々に支えられてこの留学は成立しているのだと感じました。ありがとうございました。

バークレー大学のマージさんは、授業になかなかついていけずに困った際に、追手門学院生のためだけに授業の代替案を考えてくださいました。申し訳ない気持ちでいっぱいですが、本当にありがとうございました。

出国前から、帰国まで多くの方々のおかげでこの留学を無事に終えることができたのだと感じます。この留学で経験したことは決して無駄にせず、自身の英語力の向上に努めます。

この度は、誠にありがとうございました。

留学報告書

荻野 空芽

1．留学先の地域や大学の印象

留学先の地域の印象は、アメリカの独特な街並みが見え、とてもきれいな印象でした。少し異臭がしたり寝転んでいる人がいたりしたからそういう面では、きれいという印象は持ちませんでした。しかし、道端にはゴミは全然落ちていなく、そこは日本より良い印象を持ちました。看板に“DRUG FREE ZOON”と書かれた看板があり少し怖い印象も受けました。大道りには、多くの食べ物屋さんがあり、特に“Top Dog”というお店のホットドッグがとても美味しかったです。アメリカならではのお店や中華料理、コンビニもあり生活しやすい地域でした。食べ物だけではなく、服を売っているお店、本やスーパーマーケットと様々ありそのあたりでは、日本と似たような印象でした。

地域の人は、話しかけると丁寧に教えてくれたり、笑顔で接してくれたりしたので気持ちよく生活できました。バークレーを地元にしている方も多くいましたが、バークレーには留学生が多くいてアジア系の方もとても多くいました。中には留学生だけではなく観光客も多くいることがありました。

留学先の大学は、とても多く古い学校の割にはきれいな印象でした。大学の中に、建物が何か所もあり、校内を車が走るほど大きく驚きました。特に大学の図書館は、僕が知っている日本の図書館よりも大きく、本の数も比べられないほど多く素晴らしい大学でした。

大学の先生は、生徒に対する理解がとてもあり、一人ひとり考えて接してくれるので、とても楽しく生活でき、本当に校舎や設備、先生、どこをみても一流で素晴らしい大学だという印象を受けました。

2．授業やその他活動の概要

授業は、留学を通して３つの授業を受けました。１つ目は、”Business Vocabulary”という授業で、この授業は２単位取れるということでレベルは高い授業でした。初めの１週間受講して授業を変更したのですが、それまでの内容は、授業や記事を読んで学んだ単語を受講生の前で発表することや、先生から与えられた課題についてグループで話し合い発表すること、記事が配られ内容を要約するし発表することを頻繁に行いました。

２つ目は、”Humor”という授業を受講しました。この授業は、アメリカの Humor ついて先生が作られたスライドを見て、自分たちの国と比較したりしながらクラス全体で話し合いをしました。また、プレゼンテーションを２回行いました。１回目のプレゼンテーションは授業資料の要約でした。２回目は、アメリカの Humor だと思うものの紹介をしました。

僕たちは、トムとジェリーについて発表しました。そして、”Field Trip”として、劇を見に行きました。劇は、とても面白い内容になっていてアメリカの笑いを感じることが出来ました。

３つ目は、“Food”の授業です。この授業は２週間目から受講しました。内容は学校の図書館を見学や、Food についての単語の学習、レストランでの会話表現の学習をしました。この授業では” Field Trip“の時間が多く設けられ、スーパーマーケットやレストラン、フリーマーケットに行きました。

そのほかの活動は、休日にサンフランシスコに行って観光をしました。日本では見ることが出来ない風景やアメリカならではの買い物を楽しみました。また、オークランドに行って野球観戦をしました。大谷翔平選手の二桁勝利二桁本塁打の瞬間を見ることが出来、感動しました。アメリカではこのような活動をしていました。

３．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

留学で学んだ表現は、多くあります。授業では多く表現や発音を学びました。“Food”の授業では、レストランの表現について学びました。授業中に、先生からバラバラのカードを配られ、話している順番に並べ、実際に店員と客になってペアで練習しました。そこで、レストランでの一通りの注文方法を学びました。また、食についての形容詞の学習も行い、食についての単語を学びました。図書館見学に行った際には、図書館で使える単語を学習して、文章とつなげて単語を覚えていきました。

“humor”の授業では、発音を学びました。伝えたい単語を大きくしたり、伸ばしたりする練習をしたり、似た単語をたくさん集め、発音の練習の中に Humor の要素を取り入れた面白い授業でした。例えば、”I told you to buy me a bunch of rouses” という文の中で伝えたい単語を強調する練習をしました。また、“How much wood could a woodchuck chuck, if a woodchuck could chuck wood”のように似た単語で発音練習をしました。このように、発音の面でおおく学びました。

生活面では、日本との違いを学びました。例えば、トイレです。近年日本では、温水洗浄便座がついているのが増えています。しかし、アメリカでは、すべてのトイレが普通の便座のトイレでした。また、クレジットカード社会と聞いていましたが、クレジットカードの普及度が日本との文化の違いだと思いました。

また、授業中、トイレに行きたいときは、先生に言わずに、黙っていく方が正しいと聞いてそれも文化の違いなのかなと思いました。

４．自分が考える留学の成果と反省点

留学の成果は、たくさんあります。まず、１番の成果は、留学の自分の中の目標の１つでもあった人間関係を増やすことを達成できたことです。この留学を通して様々な人と関

わり、多くの国の人々と関係を持つことが出来ました。例えば、日本人の方とつながりを持つことが出来ました。また、韓国、香港などアジアの方々ともつながりが出来ました。アジアの人々だけではなく、アメリカの友達もでき、学校にいた先生ともよい関係を気づけたことが１番の成果です。次に、常に英語に触れていたことで、今後の英語力向上のモチベーションにつながったことです。今まで英語だけど、そんなに勉強に身が入りませんでした。しかし、今回の留学を通して、海外に人ともっとすらすら話せたらと考えるだけでワクワクした気持ちになり、その気持ちがモチベーションにつながっています。これは、僕の中で大きな変化でこの気持ちの変化を得ることが出来たことは大きな成果だと思います。最後に、たくさん英語を話し、聞いたことでほんの少しだけ英語力が向上したことです。１週目は、全然英語を聞き取れず大変でしたが、２週目や３週目になると、少し聞きやすくなり、英語もとてもゆっくりですが話せていました。このことが成果でこれを無駄にしないようにこれから頑張っていきたいです。

反省点は、留学前の学習が少なかったことです。もっとスピーキングやリスニングを練習していけば、もっと友達と話したり、授業を楽しく受講したりできたと思います。学習を深めていれば、今回書いた成果よりもはるかに良いものを得ることが出来たと実感しています。これが、この留学を通して僕が考える留学の成果と反省点です。

５．留学経験を今後どう活用したいか

僕は、この留学経験を今後生活に生かしていきたいです。具体的にいうと、１年時の春学期という早い段階で留学を経験している大学生はそんなに多くないと思います。この早い時期から海外を経験しておくことで、ほかの学生との経験での差が出来ていると考えます。もちろん切磋琢磨して勉強する必要があるから、留学で感じたことを留学に行っていない友人に共有することはできますが、実際に肌で感じることが出来たのは、自分だけで授業のレベルに標準を合わせて勉強できるので、今後の勉強に生かしていきたいです。

また、海外で得たコミュニケーション能力を生かしてさらによい人間関係を築いていきたいです。英語という日本ではあまり使用しない言語を使用して、全く知らない人と会話をした経験は日本の学校生活や言語仕事に就いたときにとても重要になる能力だと思います。そのような能力を留学中に高めることが出来たので、このコミュニケーション能力も存分に生かしていきたいと思います。

そして、様々な国の人々と関わったので、人の考え方について理解が深まったり、異文化を理解したりすることができました。その経験は、日本でも人の個性を理解すること、グローバル化が広まっている今、人の考え方を尊重するということのようにとても重要なことを経験し自分の中に落とし込むことができました。このことを活かし、どのようなことの理解できる人格を形成していきたいと考えています。

留学では、多くのことを得たことが出来ました。そのことを今後に生かしていき、さらに良い生活にしていきたいです。

6．謝辞

謝辞を伝えたい方はとても多くいます。まず、非常に高額な留学費を出しくれて、留学という素晴らしい経験をさせてくれた両親です。留学という経験は人生において簡単にはできない経験で経済力がない僕には普通に考えればできない経験でした。しかし、両親が費用を出してくれて経験することができました。また、準備の面でも協力してくれて、出発時には元気に送り出してくれました。そんな両親に感謝したいです。

次に、学校の教員の方々、JTB の方々に感謝したいです。大学 1 年生で留学を経験できることはあまりないと思います。しかし、教員に方々や JTB の方々がプログラムを考えてくれて早い段階からとても自分のこれからにとってとても大きい経験ができました。また、留学中に僕たちが授業についていけなく、しんどい時がありました。そんな時も話を聞いてくれたり、アメリカの大学側とも話をしてくれたりして、結果クラス変更をできるようにしてくれたりとすごく助けていただきました。

最後にアメリカの大学側に感謝したいです。僕たちのレベルに合わせて話す速さを変えてくれたり、課題の面でも日本人の人と一緒のグループにしてくれたり、他の国からの留学生とは別の課題にしてくれたり、ZOOM ミーティングも開いてくれました。さらに、クラス変更という普通では、できないようなことを受け入れてくれました。その結果僕たちはとても快適に生活することができて英語力向上に努めることができました。なので、感謝を伝えたいです。

このほかにも、僕たちの留学に関わってくれた方々にとても感謝を伝えていです。日本にいる友達やアメリカの大学で助けてくれた友達、寮でご飯を提供してくれた方々などにも感謝したいです。

留学報告書

牧村 彩花

1．留学先の地域や大学の印象

留学先の地域は、日本に比べて治安が悪いと感じました。街中には、多くのホームレスの方がいました。壁側につめられたり、シネと何もしてないのに連呼されたり、ゴミ箱を漁る姿を何度も目撃して驚いたことを鮮明に覚えています。街自体は、スーパーやスタバなどありましたが、1キロ以上離れたところにあり少し不便でした。そして、山が近かったです。

大学の印象は、多種多様で溢れていてキャンパス自体とても綺麗でした。そして、設備がとても優れていました。Student Store やジム、カフェなどがありました。１つ１つの建物がとても広く、図書館は追手門のキャンパス１個分ぐらいの広さでした。大学の敷地内には、日本でいう自転車の移動のように電動のキックボードで登校をする人や大学生以外の人も多く、放し飼いにされている犬が散歩していたり、フリスビーで遊んだりしていました。そして、初めて近くの距離でリスを見ました。大学生は、大人の方から 20 歳ぐらいの方で幅広かったです。その中でも、2000 年生まれの留学生が多かったです。

2．授業やその他活動の概要

以下の授業２つと課外活動を３週間の間で行いました。

授業

・Su22 American Language and Culture: Humor

・Su22 Food for Thought

課外活動

・SNAP SHOT　Your Pictures Our Stories

3．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

留学では、様々な経験、体験をして多くのことを学んできたと感じています。その中でも、学んだことは大きく２つありました。

１つ目は、コミュニケーションの大切さです。コミュニケーションを取るにはまず英語力がとても必要です。私自身、流暢に話すことが出来ないためとても苦労し挫折を人生で初めてと言っても過言ではないぐらいの経験を味わいました。しかし、知っている単語単語を繋げて身振り手振りで自分の思いを伝えようと頑張ることで相手は優しく頷いて聞いてくれました。そこで外国の人は改めて表現力が豊かであり、コミュニケーション能力が高いこと

に気付かされました。

2つ目は笑顔です。世界共通語のように笑顔は大切であることに気付かされました。ニコッと笑うことによって、そこから相手は沢山優しく話してくれたり、スーパーや買い物の際に目があった時に笑顔になることで「今日の調子はどう？」などの会話をすることができました。留学を通して多くの外国の人と連絡を交換することができて本当に嬉しかったです。初めは、少し緊張して話すことができませんでしたが徐々に慣れていくことで話すことができました。留学を終えた今でもDMを続けている友達がいます。

4．自分が考える留学の成果と反省点

留学を終えての成果としては、コミュニケーション能力が上がりました。北村先生にも留学に行く最後の授業でシャイと言われました。そこで、確かに自分はシャイであると気付かされました。なので留学では殻を破り、自分から話しかけようと意識して行動しました。初めは緊張してうまくいくかとても不安でした。しかし、みなさんがとても優しく自分から授業のことで質問したり、写真を撮ったりと行動をしました。そのおかげもあって、今でも話せる友達が出来たことは本当に嬉しいです。そして、現地に行くことで洋画でしか今まで見れていなかった世界観を自分自身で感じて、アメリカの文化や食生活を体験し新たな知識が増えました。

反省点としては、多くありますが自分の英語力の無さを突きつけられました。周りの留学生は3回、4回生と歳上が多く流暢に話せる人ばかりでした。そのため、授業に積極的に取り組みたい気持ちはありましたが、取り組むことが出来なかったと感じています。なので、この先日本でまた英語を学び直して留学に再チャレンジしたい気持ちが増しました。

5．留学経験を今後どう活用したいか

留学の経験は多くのところで今後活かしてきたいです。まず初めて現地で授業を受けることで外国での授業を受ける大変さや難しいことを知りました。そのため、グローバルスタディーズ専攻には多くの留学生がいるのでより親切にし、助ける必要があると感じました。

そして、元から人見知りなく誰とでも話すことができていましたが更にコミュニケーション能力が向上したと感じています。現地の方や外国人は表現力がとても豊かで誰とでもコミュニケーションをとっていました。自分自身もその影響でコミュニケーション能力が上がったと思います。この先多くの人と関わり、積極的に留学生とコミュニケーションを取りたいです。

6．謝辞

まず、この留学に行かせてくれた両親にはとても感謝しています。3週間で90万はとて

も高額です。しかし、笑顔で送り出してくれた家族には感謝しきれないほどです。留学中には、授業について行くことが難しく単位が取れるかわからなくなり、何事も不安になりストレスに感じました。その際に、泣きながら電話をした時もありました。両親揃って「楽しんでくるのが留学だよ。単位のことは気にしないでいいからね。」と言ってくれた時にはとても心が楽になりました。本当にありがとうございました。

今回は、多くのことでご迷惑をおかけしました。しかし、先生方のおかげでこの３週間のプログラムを無事終えることができました。私たちが困ったことに対して動いて下さってとても感謝しています。何度も個人向けにメールや電話を下さった先生方、忙しいのにも関わらず緊急で zoom ミーティングを開いて下さって、あらゆる方法で改善に向けて動いてくださり本当にありがとうございました。

初めの１週間は、これまでに経験したことのない辛さを味わいました。今思い返すだけで泣きそうなぐらいです。しかし、振り返ってみてとても貴重で大切な経験ができたと感じています。この貴重な経験を活かしていきたいです。

留学報告書

武田 晴陽

1．留学先の地域や大学の印象

アメリカカリフォルニアのバークレーに留学として来て、頭に残っている印象は、町全体がとても賑やかで暮らしやすそうな印象でした。道行く人に声をかけられて“wass up?”と何回も聞かれたのが印象に残っています。もちろん全員知らない人ですが、そのまま少し話をするということもあり、日本では経験しないことを経験することができました。そして、大学も綺麗でとても大きな建物で自分の通っている大学とは比にならないほどのものでした。学生もみんな見るからに賢いであろう空気感が漂っており、初めのうちは正直ビビっていました。ただ、実際に話してみるとみんなとてもフレンドリーな子ばかりですぐに仲良くなることができました。僕のような英語の基礎もできておらず、話すこともできない人に対しても積極的に話しかけに来てくれ英語での会話に慣れていないことを理解してゆっくりと話してくれたり、単語を別のものに言いかえてわかりやすく説明をしてくれたりなどとんでもないくらいに親切にしてくれたのでとても良い印象が残っています。

2．授業やその他活動の概要

授業のレベルは高く、僕たちのレベルではついていくのに精いっぱいでした。周りにも日本人は複数名いましたが、皆さん難関私立の大学の方などが多く、その方でも苦戦をしている状況であったため、非常に難しかったと感じました。ただ、なにもかもが理解できないということではなかった為、聞き取れる部分は聞き取り、メモを取ったり、わからなかったところは後で自分で調べるなどをして常にこの授業が楽しいという気持ちで授業を受けていました。質問なども授業終わりに担当の先生に聞きに行って自分なりの英語で話しかけに行ったりなど、沢山のことを試みました。普段のアメリカでの生活は、見知らぬ人とも話をしたりして、交流を深めていきました。そして、アメリカの食文化なども知ることができました。休みの日などは、バークレーから離れたサンフランシスコに行き、向こうでしか買うことのできない服や食べもの、お土産など様々なものを買い続け、ついお金を使いすぎてしまいました。そして、バークレー校の授業の中で仲良くなった外国人の子とごはんに行こうという話になったので、二人でごはんを食べることなどもありました。お互いの国のことを話しながら文化の違いを話したり、また、相手は日本が好きなのでアニメの話をしたり言語の話をしたりなどでかなり盛り上がることができました。

3．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

留学において学んだことは、僕たち日本人がいままで学校で習ってきた英語とは全く違うものでした。正直なところ文法はめちゃくちゃで話の中の単語をほとんど略して話すような人がほとんどでした。その中で学んだことは、上手に話すのではなく、とにかく会話をしようとすることが大事であると気づきました。また、日本とは文化も全く違うため、アメリカ人はみんな自己主張が激しく、日本人にはまだまだ足りない要素が沢山ありました。さらに、外国人からよく「日本人は礼儀が良すぎる」などテレビで言われていたが、実際にアメリカに行って気付きました。日本人は確かに礼儀が良すぎるなと気付きました。アメリカではお店などで買い物をした場合、店員も客もお互いが謙遜しあって接しているが、アメリカのお店では、お金を投げられたり、ガムやお菓子を食べながらレジ打ちをしている店員がいたのでそれを見ると日本の接客の対応の良さに気付かされました。それから、日本人として礼儀というものは誇りにもって置くものなのだなと認識ました。

4．自分が考える留学の成果と反省点

僕は留学を通して、自分の英語の能力が少しでも上がったと感じています。初めのうちは聞き取ることも簡単な英語を話すのでさえ頭が回らなくて何も話せませんでしたが、留学が終わる頃にはそれはなくなっており、自分の力でそれなりに話すことができていました。会話をするにはまだまだ程遠いかもしれませんが、聞き取りはかなりできるようになったのではないかと思えるようになりました。会話も、あいさつ程度しかできなかったものが、多少の会話はできるようになりました。ただ、せっかく一か月もの期間を使って留学をしたのにこんなところで身に着けた能力をなくしてしまうのはとてももったいないことなので留学したことをそのまま流すのではなく、これからもこの経験を無駄なものにしないためにTOEICの勉強や発音、リスニングなどを続けていきたいと考えました。しかし、それとは逆に、自分の英語力の低さも改めて感じました。アメリカでは全く通じない発音や、まだまだ知らない単語やスラングが沢山あり、スラングに関しては仮に単語を知っていても理解できるものではないのでそういったものを家で勉強していき、今後の活動に生かしていきたいです。

5．留学経験を今後どう活用したいか

この留学経験は今後の大学での授業に活用していくのはもちろん、TOEICなどの資格の勉強、それから二度目以降の留学にも活用していきたいです。また、日本にいるからといって海外の人と話すことができないというわけではなく、大学内の英会話サービスを活用して話をしたり、友達にも外国人がいるので話し相手になってもらったりすることが留学で身に着けた力を捨てることなく残しておくことができる一つの方法なのではないかなと思

います。そして、この留学経験は自分の中で振り返って次の留学の機会に向けて準備をしたり、先生や海外経験のある人に話をすることで話を広げていくことができるかもしれませんが今回の留学の話は、海外経験の無い子に話をしてあげることが一番重要だなと考えました。海外経験の無い子はどうしても海外に何か偏見を持っていた李、恐怖心があるかもしれません。そのような子のために今回僕がアメリカに留学したという経験をしたので海外の魅力を伝えてすこしでも多くの人に英語の魅力や海外の良さに気付いてもらえるようにしていきたいです。

6．謝辞

今回の留学プログラムに携わっていただいた追手門学院大学の教授の皆さんや職員の皆さん。今回は国際学部一期生の私たちのためにこれほど手厚い支援をしていただいたことに心より感謝いたします。来年度以降も引き続き支援の方をよろしくお願いいたします。

留学報告書

文山 凌汰

１．　留学先の地域や大学の印象

まず、留学先の地域の印象や感じたことについて記します。私はアメリカのカリフォルニア州バークレーに３週間留学を体験しに行きました。カリフォルニア州は日本とあまり緯度が変わらないにもかかわらず、すごく涼しい気候でした。そしてそこは夏なのに昼間でも２０度に届くかどうかというくらいの温度しかありませんでした。加えて湿気が全くなく、日本と比べものにならないくらい過ごしやすかったです。雨も３週間のうちに 1 回小雨が降ったくらいでした。

つぎに大学やその周りの印象です。大学自体はすごい大きな敷地を有していました。敷地内にはたくさんの建物があり、建物１つ１つが古く歴史のあるものでした。例えば、私は図書館に行ったときに驚いた事がいくつかあります。１つめは図書館の大きさです。私が今まで行った事のある図書館の中で１番大きかったことです。図書館から出ようとしたときに出口が分からなくなり、中でさまよっていました。２つめは芸術品が多く飾られていました。壁に天使の絵が飾られていたりして図書館とは思えないくらいでした。大学の周りは治安は最悪でした。昼はまだ出歩ける程度でしたが、少し暗くなると大麻かマリファナか分からないけど刺激臭のような匂いが寮の周りで常にしていました。

２．　授業やその他活動の概要

はじめは「Business Vocabulary」と「Humor」と言う授業をとっていました。しかし途中で「Business Vocabulary」を「Food」と言う授業に変えてもらいました。理由は単純に難しすぎたからです。詳しく言うと全く授業について行けなかったのです。授業はすべてネイティブで聞き取れて当たり前でそこからデイスカッションをしてすすんでいく形でした。しかし、私は聞き取りの時点で８割くらい理解出来なく、全く授業に参加することが出来なかったのです。

「Humor」の授業は、先生自身がユーモアを持っていて、楽しく授業を受けることが出来ました。あまりしっかり理解出来ていない私たちに優しく教えてくれたりもしました。この授業で１度課外授業のような形でサンフランシスコに劇のようなものを見に行きました。英語をすべて聞き取れなくても、行動で笑うことが出来たので、アメリカの Humor という文化を学ぶことが出来たきがしました。

「Food」の授業は Humor の先生以上に私たちに寄り添ってくれました。最後の授業が終わった後、私に「来年も待ってる。必ずリベンジしにおいで」と言われて、リベンジする気

が起きました。来年には行かないと思うけど、３回生くらいでまた行きたいです。

３．　留学により学んだ事の具体例(英語表現や具体例など)

留学で学べた事はたくさんあります。1つめはチップの文化です。ホットドッグの店に行ったとき、中年の男の人が店員でした。その人は初めはすごく愛想が悪ったです。しかし、チップを渡した瞬間、「俺は１０年前に１度京都に行ったことがあるんだよ」などと急に元気になり、チップの効果を知りました。その後も近くで行われているライブの情報なども教えてくれ、仲良くなることが出来ました。2つめは、国によって英語の発音が全く違うことです。これは知っていましたが、アメリカで自分自身で経験できたことはすごく大きいと思います。例えば一般的なアメリカ人はすごい舌を巻いて単語と単語をくっつけて発音します。一方で、寮でしゃべったインド人は語尾がはねるような発音ですごく聞きずらかったことを覚えています。Improve がいえない生徒もいました。その国によって英語は形を変えることを知って少し面白かったです。３つめはちょっとしたときのネイティブの英語の表現です。Food の先生は「ちょっと待って」と言うときに「One second」と言っているのが印象的でした。直訳で1秒という意味ですが、待ってと音買いするときにも使えることに驚きました。

渡航前に留学特別演習で学んだ「It's up to you」と言う表現もネイティブは多用していました。この表現は習っていなかったら確実に分からないので授業のありがたみを実感できました。

４．　自分が考える留学の成果と反省点

まず、反省点の1つめは、授業の初日で挫折してしまったことです。簡単に言うとメンタルブレイクです。授業の内容が思っていたよりも何十倍も難しく、そのギャップでメンタルがズタボロにやられてしましたした。加えて回りが英語出来る人で、ディスカッションなどしていたけど、自分は言いたいことがいえない無力さを強く実感しました。2つめは全然友達を作れなかったことですその1番の要因は言葉が通じないことにより、人に積極的にしゃべりかけれなかったことです。寮に何人かしゃべれる人はいたものの、簡単な会話しか出来ませんでした。成果の中で1番大きいのは、リスニング力の向上です。2週間目くらいから徐々に聞くことが出来るようになりました。聞けると言っても自分の知っている単語だけです。日本に帰ってきてから電車などの英語の放送を聞けるようになりました。つぎに留学に行けたこと自体が成果だと思います。１年の早い段階で海外に行くことで自分の今のレベルや海外の習慣、文化など身をもって学び、感じることが出来たことがすごくよかったです。

５．　留学経験を今後どう活用したいか

これから先のことはあまり考えてはいませんが、もう一度留学をしたいと考えています。それに向けて今回の留学経験を活かせたらいい思います。例えば、留学先に行くときに下調べをもっとしっかりするなど。今回の留学はほとんどした調べなくいった結果、観光地など何も分からなかったり、持って行った服が現地の気候と全く合わなかったりしました。そしてこの留学で自分の無力さを知れたので、それをこれからの勉強のモチベーションにして、次回の留学に向けて精一杯努力したいです。

６．　謝辞

自分はこの留学でたくさんの人に迷惑をかけたと思います。１番ありがたかったことは追手門学院大学と University of California, Berkeley 間の連携の早さです。Zoom ミーティングで追手門の職員に授業について行けないと話し合った結果、しっかり対応してくれて、次の週には授業を変えることが出来ました。加えて、一方的なこちらのわがままにもかかわらず、柔軟な対応をしてくれたバークレー校にも感謝しています。

現地でバークレー校の長と話す機会を向こうが作ってくれました。彼女はマージさんと言って、自分たちがわかりやすいようにしゃべってくれたり、彼女自身の留学経験についてもしゃべってくれました。メンタルが終わっていた私たちにとってとても心強い存在でした。

留学報告書

宮尾 藍羽

1．留学先の地域や大学の印象

留学先は、日本の夏とは比べ物にならないぐらい寒かったです。日本でいう秋のような気候で、上着がないと寒いと感じる日も多くありました。また、日本よりクレジットカード等のキャッシュレス決済が浸透しており、中には、クレジットカードや電子マネーのみでの決済しかできない飲食店等もあり、注意が必要です。そして、街中を歩くと、英語だけでなく、様々な外国語を耳にしました。中国語や韓国語、そしてスペイン語など、日常生活の中で様々な言語に触れることができました。たくさんの文化にも触れることができ、多様性というものを様々な場面で感じ取ることができたと感じています。留学先の大学に対して抱いた第一印象は、とにかく敷地面積が広いということです。授業を受ける建物も複数あり、何度か迷子になりかけました。また、かなりレベルの高い学生が多く、自分の未熟さに辛くなることもありましたが、自分よりレベルの高い人たちについていくために努力することが自分自身のモチベーションになっていました。そういった意味でも、今回の留学は、私にとって、とても良い刺激を受ける貴重な体験となりました。

2．授業やその他活動の概要

授業のレベルは今の自分にとってはかなりついていくのが大変でした。しかし、わからない中に飛び込んでいくことには、楽しさもありました。1 週目は、周りが何を話しているのか、どうしたら理解が深められるのか、試行錯誤をする 1 週間となりました。まだ耳が慣れておらず、英語を英語として聞き取り、理解するのにとても苦労しました。2 週目になると、1 週目に比べて先生や、他の留学生がどんな事を話しているのか、少しずつ分かるようになりました。もちろん、大学の先生方が配慮してくださったことが理解できるようになったと感じる、大きな要因になっていることに違いありません。しかし、日常生活においては、自分自身の成長を感じました。相手が何を伝えているのか聞き取ることができることはとても大切なことです。しかし、自分の考えを相手に伝えられないと会話が成立しません。少しでも多く聞き取ることができるようになったことは成長ですが、自分の考えを伝えることに関してはまだまだです。今後、自分の考えを英語で伝えることに焦点を当てて、言語習得に励みたいと考えています。大学の授業内で取り扱われる内容は、国際社会において話題になっているものが扱われることが多く、中には日本国内ではあまり聞かないこともありました。留学に行く前に、少しでも外国で何が起きているのか把握しておくのが良いと感じました。

3．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

アメリカに身を置いてみてわかったことは、時間に対する感覚が日本と大きく異なるということです。15 時までの窓口が、14 時 50 分に閉まってしまうことも良くあるようです。人によって違うと言えばそうだと思いますが、許容されているところに文化の違いを感じました。時間に対する価値観の違いを感じました。そして、正直なところ、お店で何か注文するとき、最悪、This one please. で分かってもらえます。そのため、変に緊張する必要がないことを学ぶことができました。お店の人が、頑張って私の英語を聞き取ろうとしてくれたことは大変有難いものでした。もちろん、店員さんの優しさにいつまでも甘えているわけにはいかないので、挑戦していくべきだと感じています。文化の違いに触れることができてとても貴重な経験ができたと嬉しく思います。様々な国籍、価値観の人と出会えたことが、留学期間中、最も学びの多いことであったと感じました。

4．自分が考える留学の成果と反省点

留学の反省点として、どうしても日本人が多数派になってしまっていることで、日本人同士で固まろうという心理が働いてしまうことが挙げられます。日本語が通じず、自信のない英語でのコミュニケーションに不安を感じ、安心する方向へどうしても流れてしまいます。そうしていると、やはり、留学先でしか得られない経験というものが薄れてしまうと感じました。一度飛び込んだからには、積極的に英語を活用するべきだと考えます。私自身、新型コロナウイルス感染症に罹患してしまい、3 分の 1 を正規の活動に充てることができませんでした。感染症対策はもちろん、最悪の事態に備えて動くことがなによりも大切だと改めて感じました。成果としては、コミュニケーションに以前より自信が付いたことです。英語を使って話すことに不安を覚えていましたが、そこで怖気づいていてはいつまでたっても解決しません。無理にでも英語を使わなければならない状況下にあると、不安よりも、どうにかしようという考えが先に働くものです。1 度できてしまうと、次もたぶん大丈夫だろうと考えられるようになってくるものだと感じました。そして、国際交流は積極的にしたほうが良いのではないかと感じています。そこでしか生まれなかった交流や、人とのつながりを楽しむことが、英語力を高めるためにも、様々な価値観に触れるという意味でも素晴らしい経験になると感じています。私も、アメリカで出会った人と話すことがとても深い思い出の 1 つとなっています。

5．留学経験を今後どう活用したいか

正直、今回の留学において、心残りがあります。今回の留学で最後まで無欠席で授業に参加できなかったことは、機会を無駄にしてしまったと感じてしまいます。その悔しさを糧に

日本での大学生活において、自分にできることを精一杯取り組みたいと考えています。もちろん、行って良かったと感じることや得られたものもあります。例えば、自分の英語力の不足している点についてです。留学に行って 2 週間もすると、少しずつ英語が英語として聞き取れるようになってきました。しかし、次に私は大きな壁にぶつかりました。それは何かというと、聞き取れても返すことができないということです。圧倒的に英語で自分の意見を述べる能力が足りていないと感じました。とっていた授業の先生に、英語は日本でどのように習うのかと尋ねられました。あまり話すことはしない。と答えました。留学に言って感じたことは、話そうとしなければ話せるようにならないということです。そのため、今後はスピーキングにも焦点を当てて今後の英語学習に励んでいこうと考えています。

6．謝辞

はじめてのことばかりで右も左もわからない私に、的確な指示をくださった追手門学院大学の皆様、英語が分からずどうしたらいいかわからない中で、ゆっくり話してくださったり、配慮をしてくださったりしていただいたカリフォルニア大学バークレー校の皆様、留学期間中は大変お世話になりました。まだまだ未熟者ですが、今後より一層の英語運用能力と国際的な価値観を身に付けられるよう、また、今回の短期語学留学の経験を無駄にしないよう、今後の大学生活も精進して参ります。本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

留学報告書

中務 聖太

1．留学先の地域や大学の印象

わたしが行った留学先のカリフォルニア大学バークレー校は、大学周辺の治安もそこまで悪いというわけではなく、さらに大学の校舎内もとてもきれいにされており、わたしの目から見た印象はとてもよかったです。その大学で働いていた先生方もとても人柄がよく、授業の内容も分かりやすかったです。授業の内容自体はとても難しかったですが、先生の上手い教え方のおかげである程度理解できたので、とてもいい経験になりました。

しかし、夏休み期間ということもあってか、ネイティブの学生は少なくわたしたちと同じように留学できてる学生が多い印象を受けました。

話が少しそれてしまいましたが、アメリカの大学の敷地は日本の大半の大学より遥かに大きく校舎も多すぎて正直戸惑いました。

寮から大学までの道は短く、徒歩 10 分もかからない程度でした。大学の近くということもあってか、治安はとてもよかったです。

2．授業やその他活動の概要

授業では、当たり前ですが英語オンリーだったので、理解することがとても難しくついていくことが出来ませんでした。なので、わたしは 2 週目から授業を変えてもらいました。

その結果、ギリギリ授業についていくことができ、英語に対する苦手意識も減っていきました。わたしが 1 週目に受けていたのは、Academic speaking と American language humor の 2 教科だったのですが、前者の活動内容は主にプレゼンテーションを中心的にやるというものでした。授業の序盤の方は、出来る限り頑張ってついていこうとしていました。しかし、日を重ねるごとに内容は難しなっていき、ついていくことが出来なくなってしまいました。

なので、わたしはこの授業を American food という授業に変えてもらいました。この授業では、プレゼンなどがなくフィールドワークが多かったので楽しく受講できました。

American language humor の授業は、アメリカンスタイルのユーモアを学ぶという授業で、授業内で先生がアメリカのアニメやお笑い番組などを見してくれたのでとても楽しかったです。この授業の中でも英語で意見を言う時間がありましたが、プレゼンなどの大掛かりなものではなく、その場で立ち上がって意見を言う、その意見に対して他のクラスメートが感想や意見を言うといったものでした。不細工な英語になってしまいましたが、他のクラスメートの学生たちが、優しくレスポンスをしてくれたのでうれしかったです。

3．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

留学先のカリフォルニア州では、日本と違いマスクの着用に対しての意識がそこまで強くなかったことに一番驚きました。日本では、マスクをしていない人は煙たがられ嫌がられている印象です。印象というより事実です。しかし、アメリカの人はマスクをしていない人がほとんどで、逆にマスクを着けている人の方が少なかったです。これが文化なのか、それとも個人の意志なのかはわかりませんが、日本と全然違うかった点であるということは事実でした。なので、驚いた点はマスクの着用の有無でした。英語表現の驚いたポイントはとてつもなく話すスピードが速かった点です。日本では、外国人旅行客に対してゆっくり日本語で話すことが大半です。しかし、アメリカは英語を話せることが当たり前というような前提で話しかけてきたので、会話することが難しかったです。

さらに、学校で習う英語の使い方との大きな違いは、略すことが大半だということです。日本語と同じで略すことが多いので聞き取れなかったです。例えば、because を cuz と略すように色々な略し方があって困惑しました。

しっかりとした丁寧な英語はあまり聞くことがありませんでした。学校の授業内では先生が丁寧な英語で話してくれたので理解することが出来ましたが、街中や店の中ではラフな話し方が大半だったので、そういった現地特有の英語を学ぶ必要があると思いました。

4．自分が考える留学の成果と反省点

留学先では英語を使う機会がとても多かったので、英語に触れる機会がとても多かったです。なので、初めて聞いた単語や文法、英語表現などが次から次へと出てきたので、意思疎通ができないことがほとんどでした。しかし、それは自分の勉強不足が原因だったので、もしまた留学で外国に行く際は、もっとしっかりと勉強して、コミュニケーションをしっかりと取れる様になりたいです。加えて、留学先でも日本人と一緒にいる事が大半でした。

それは、留学に行って最もやってはいけないことだったのですが、英語力が足りなさすぎて、日本人の友達と一緒にいる事を余儀なくされました。わたしの一番の反省点はここです。

成果はというと、英語を勉強することに対するモチベーションがとても向上した点です。留学前の勉強の動機は、学校で単位をとるためでしたが、留学から帰ってきた今は、次また外国に行く際にしっかりと会話を続けれるように勉強したいと思いました。自分の英語力は、そこそこ高いだろうと思っていましたが、アメリカで本場の英語に触れてから自分はまだまだなんだと知りました。

英語を流暢に話していた他の学校の学生は、現地の人ととても楽しそうに話していました。留学はとても楽しかったのですが、もっと英語力が高かったらさらに楽しめただろうなと思いました。それだけが心残りなので、自分の英語力をもっとあげれるように勉強を真面目にしたいと思いました。

自分の中の意識の改革が留学の成果だとわたしは思います。

5．留学経験を今後どう活用したいか

留学という貴重な経験は誰でも出来る訳ではありません。両親に高い費用を払ってもらい、それ相応の英語力があってようやく出来る体験です。自分の周りには、外国に旅行で行った人はたくさんいますが、留学で行ったという人はいなかったです。

なので、こういった貴重な経験はこれからの自分の人生でとても重要な資産であり思い出となるので一生大事にしたいと思います。

海外に興味を持っている人や、留学に行きたいと思っている人たちに、留学が自分にとってどれだけ貴重な経験になるかを知ってもらいたいので、自分の経験を教えたいです。

まだ先ですが、就活をするとなったときに、他とは違うアピールポイントで留学の経験を語ることが出来るので、これからの人生において有効活用したいです。

6．謝辞

American language humor のスコット・クリスプ先生、Food のジェニファー先生、わたしは不慣れな英語で、授業についていくことが出来ていませんでした。そんな中、聞き取りやすく、わかりやすい英語で話してくださったおかげで、授業を理解することができ、さらに自分の英語力の向上に対してとてもいい経験になりました。わたしは最初の週は違う授業をとっていましたが、ついていけなかったです。そんなわたしにもわかるように丁寧な英語で授業をして下さったおかげで、ナーバスになることなく授業を受ける事ができました。本当にありがとうございました。

留学報告書

森岡 千尋

1．留学先の地域や大学の印象

私が思った留学先の地域は、アメリカです。そしてそのアメリカの印象は、映画の中に入ったような印象を受けました。初めての海外だということもあったのですが、日本よりも少し汚いという印象でした。大学の印象は、元々大学の名前を聞いたことがあったので有名なところなんだろうなという印象がありました。そして実際通ってみると、寮からは少し遠いという印象がありました。中はとても広くて、日本の大学に比べて博物館のような印象がありました。そしてとても広かった記憶があります。図書館も日本の図書館とは比べ物にならないくらい広くて居心地が良かったです。外のも日本では見かけないリスがいたりおっきな建物があったり時計塔があったりと目にするもの全てが初めてという印象もありました。そしてアメリカにいる人々もフランクな方が多く日本とは違うなと思いました。そして大学の先生方も優しい方ばかりで英語力が劣っている私たちに位置から教えてくださったりと様々な手を尽くしてくださって良い印象がとてもありました。

2．授業やその他活動の概要

授業は、みんなで参加する授業が多かったです。一人で黙々という授業は少なくみんなで協力したりなどのグループワークが多かったです。そしてプリント、教科書での授業がほとんどでした。プレゼンテーションや人前に出て発表することも多くなれないことが多くありました。他活動は、課外学習などもしました。外の出て図書館の見学に行ったり、スーパーについて自分たちで調べたりしました。ボキャブラリーに授業の際には実際にアメリカのボキャブラリーのコンサートを見に行ったりして触れることができたのでとてもいい経験になりました。他にも、休日の日にはサンフランシスコに遊びに行ったりもしました。買い物をしたりご飯を食べたりなど様々なことをして楽しむことができました。景色が綺麗なところや行ったことのない場所に行ってみて日本ではみることのできない様々なものに触れることができました。

3．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

留学先により学んだことは、実際に英語を喋れる方の英語に触れた時にその人の出身地に少し喋り方が違ったりとその国の特徴が出ているのかなと思いました。他にも日本と違うところがいくつもあって今までとても狭い世界に住んでいたんだなと思いました。その

国の文化に適応していかなければ住んでいけないということもとても身にしみて感じることができました。日本では滅多に触れることがない薬をやっている人が平気で外にいるという状況もなかなかないのでそういう文化の面でもとても危険と隣り合わせで生きているんだなと思いました。他にもチップの制度があったりと日本ではないこともあって学びと気づきがとても多くありました。そして、言語が完璧に通じあっいるわけではないので危険なことに巻き込まれることも少なくないと思うので日々そのようなアンテナを張って気をつけながら自分の身は自分で守らなければいけないなと思いました。英語学ぶと共に、向こうの法律や暗黙のルールのようなものもわかってその点でもとても学びがあったのではないかなと思いました。

４．自分が考える留学の成果と反省点

私が考える留学の成果は、留学に行ったこと異国の文化に触れることができたとても良かったと思いました。それと同時にさらに英語の授業に力を入れていかなければならないこともわかりました。他にも異国の地に住む大変さや、その文化を受け入れることについて学ぶこともできたのでそこはとても大きな成果だなと思いました。とても短い間だったし、少しでしたが、友達ができたことも一つの成果だったのかなと思いました。

反省点は、もう少し積極的に授業に取り組まなければいけなかったなと思いました。消極的に動いていることが多かったなと思いました。もう少しいろんな人に話しかけたりして友達も増やせば良かったなと思いました。課題も初めからわからないと決めつけるのではなくみんなで協力してもう少し頑張れば良かったなと反省点が少し多かったなと感じました。団体や集団生活の難しさなども分かりました。その点では反省するべき点が多くあったのではないかなと思いました。もう少し色々上手くやるべきだったなと反省点が少しあります。揉めるようなことではないことでギクシャクしてしまったりなどただでさえ様々なストレスがあるのに無駄な浪費をしてしまうことも多々あってそれも留学においては少しマイナスなことだったような気がしています。向こうの地の方とのコミュニケーションも大事でしたが、わたしたちでのコミュニケーションももっと取るべきだったなと感じました。

５．留学経験を今後どう活用したいか

私はこれから、この留学経験をこれからの授業に活かしていきたいなと思いました。向こうで、英語が喋れないことでできなかったことも多くあるので授業でもっと様々な学びを得てまた留学に行きたいなと思いました。そしてその活力になればいいなと思いました。そして、これから就職したりそういう場面でも活かしていけるようにしたいなと思いました。留学で学んだことは学習面の他にも人との接し方やどのようにすれば伝わりやすくなるかなど様々なことを学びました。なので普段の生活においても意識すれば活かせるのではな

いかと思っています。学んだことが様々な点において活かしていけるのではないかと考えています。この留学経験を活かすも無駄にするのも自分自身だと思うのでしっかり活かしていけるように授業も積極的に受けていきたいなと思いました。今回の留学は初めてだったこともあり、反省点の方が多かったように感じますがそのことをマイナスに捉えるのではなく前向きに捉え次回に備えながら活かしていきたいなと思いました。大学の授業では、プレゼンテーションも多く、人前で話すことが多かったため慣れないことが多く、私自身苦手意識がとてもあったのですがそれも少し改善され戻ってきてからの授業にも活かせるなと思いました。

6．謝辞

今回は、わたしたちがこの留学プログラムに参加した第一期生ということで様々なご迷惑をかけたことだと思います。そして想定していなかった出来事もたくさん起こったと思いました。私達自身とても混乱することも多かったのですが、その度に様々な対処をしてくださってありがとうございました。正直我儘なこともたくさん言っていたと感じました。しかしそれを否定せずなんとか寄り添えるようにとあらゆる手を尽くしてくださってありがとうございました。そして、最後まで支えて頂きありがとうございました。これからもご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

留学報告書

峯 姫菜

１．留学先の地域や大学の印象

留学先の地域(カリフォルニアバークレー)は、少し治安が悪いと感じた。自分たちの住む日本に比べて、街の中で“汚い”と感じる場面が多かった。街の至る所にゴミ箱が設置されており、これはゴミをポイ捨てする人がたくさんいるからだと推測する。

また、大学(カリフォルニア大学バークレー校)は、とても広く綺麗で初めて見た時は本当にワクワクした。敷地は広大で校舎もたくさんあり驚いた。

２．授業やその他活動の概要

授業は私にとってやはりとてもレベルが高かった。教室内では英語が飛び交い、周りの人が何を言っているのかほとんど理解できず、正直最後まで苦しかった。しかし先生方はそれを理解してゆっくり話してくれたり、簡単な英単語ををるべく使うようにしてくれたりと、私たちを助けようと働きかけてくれた。とても嬉しかった。

３．留学により学んだことの具体例（英語表現や文化など）

アメリカでは、日本に比べて全体的に開放的であると感じた。例えば、外で他人とすれ違う時、目が合えばニコッと微笑んだり、赤の他人に通り様に挨拶をしたりする。日本ではあまり想像がつかない事だが、とても感じが良い。他にも気づいたことは、日本人はよく会釈をする。アメリカでは人はあまりそれをしない。

４．自分が考える留学の成果と反省点

初めての経験ということもあってか、自分が思っている以上に言語の壁を感じた。それに対して少し立ち向かおうと思えたことが留学での何よりの成果であり、少し逃げてしまったことが反省点だ。

５．留学経験を今後どう活用したいか

この留学経験を活かして、自分の視野を広げていきたい。留学先では生まれた国が違う多種多様な人と出会った。自分が当たり前だと思っていたこともアメリカではそう出ない、又

は非常識に当たるという場面にも遭遇した。このような多様性を受け入れることで様々な角度からものが見れるようになり、視野が広がるはずだと考える。

６．謝辞

今回の留学で感謝すべき人はたくさんいる。金銭的な援助と、お見送りをしてくれた家族。様々な面でサポートをしてくれたり、問題の解決策を親身になって考えてくれた先生方。留学先で様々な事を学ばせてくれた学校の先生や現地の方。不安な時や困った時、共に支え合った友達の皆に、私は心より感謝を伝えたい。

編集後記

語学だけなら日本にいても学ぶことができますが、現地に身を置いて学ぶことの最大の意義は、その地の暮らしや習慣を肌で感じる体験にあるのだと思います。今回、3〜4 週間の滞在をもとに書かれた本資料の内容は、現地で暮らしながら学ぶことについての「長めの第一印象」と表現できそうです。今後、再び留学の機会を得たり、あるいは様々な人生経験を積んだりしたのちには別の解釈が生まれるかもしれません。それでも、いま、この時期に、この年代だからこそ得ることのできた印象や解釈を書き留めておくことは貴重です。書き留める行為そのもののなかに学びがあり、生み出された文章から次の新たな学びの機会が生まれます。その意味で、とても貴重な報告集が完成しました。

全 16 編の報告書の掲載順にも意味があります。大学での学籍番号や氏名の五十音など、機械的な並びではありません。留学特別演習 2 の授業を担当した教員の私が指定した並びでもありません。授業内で一人ずつ口頭発表する際の順番を学生たち自身が最初に決めました。その並びをこの資料の掲載順としてそのまま使っているのです。些末なことのようですが、決してそうではありません。「自分たち自身で相談して決める」ことが、留学前の春学期に比べてはるかに素早くできるようになり、それは留学先での経験が生きているのだろうと感じます。私から見てこれは大きな前進です。積極的に振る舞う意識が高まったことは、本書に収められた報告書の数々からも明らかです。

一点、細かい補足をここでいたします。経費について報告書のなかで言及されている部分がありますが、ここには直接の留学経費に加えて関連する諸経費も含まれ、また、為替レートなど諸条件によって今後変動する可能性もあります。

末筆ですが、私は留学特別演習 2 の担当教員として学生たちの報告書を受け取り、このように編集する役目を担いました。しかし、短期語学留学プログラムそのものの設計・実施に力を尽くしたのは他の方々です。国際学部の執行部を中心とする教員各位、教務課、国際連携企画課、JTB、現地受け入れ大学側の教員・関係者、学生のご家族など、非常に多くの組織や人々の献身的な努力によって、この留学プログラムが実現しました。学生たちの報告書の謝辞でもあらゆる人たちへの感謝の気持ちが述べられていますが、ここで改めて皆様への敬意と感謝の意を表したいと思います。

2022 年 10 月

追手門学院大学国際学部

北村　健二